

2023年（高校受験コース版・初冬だより） ～ 神奈川県高校入試問題分析と対策一本論 ～

☆ 2023年春 高校受験コース3年生 男女24名 合格実績 ☆

川和3・都立国際1・多摩1・横浜平沼1・新城2・市ヶ尾1・生田1・法政国際1・法政二高3・中大横浜2
日大日吉SG1・東農大2・桐蔭学園（プログレス2・アドバンス2）・青稜1・都市大等々力1・目黒日大1

今春は中学・高校入試ともに少数精鋭でありながら、本当によく頑張りました。とりわけ高校入試は、**小学校組の特色入試全員合格**が光りました。またおひざ元の法政二高（国際含む）へ高受で計4名も送りだせたことも喜びです。法政二校、男子43・女子44の内申点。高津駅前校の高校受験のシステムはどの塾よりも優れていると自負しています。ぜひ、引き続きドシドシご紹介いただければ幸いです。では前回のだより-序 に続き、高校入試の分析 - 本論です。

2023年春 全国の公立高校入試はどうだったのか？

五教科ともに例年通りで目立つ変化はありません。外形面の特徴をまとめると、現場負担を減らすため（採点ミスを回避するため）、全体には都市部の公立入試らしい「選択問題偏重」が続いていますが、一方で問題文・本文を構成する文字数が多いので、読解速度は極めて重要（この傾向が東京・神奈川・大阪の一部）になっています。内容面から特徴をまとめると、読解重視・情報処理重視など「共通テスト的」新傾向に積極的に寄せていっています。受験生で差がつくのは、特に理科《計算》と国語《論説文》ではないでしょうか？新傾向の背景としては、入試とは一面で社会を映し出す鏡でもあるので、読解力・情報処理力は社会が求める実践的な学力でもあり、この傾向は高校の教科書が昨年から変わり「情報Ⅰ」が必須化したり、「論理国語」の登場などからも予見されたことです。これは中学入試の世界においても同じで、従来の知識重視から、読解・情報処理重視へ変わってきています。どうすればよいのか？「辛抱強くしっかり読む」「理解を大切にする」「急変に備える頭のしなやかさ」といったところでしょうか？

2023年春 全国の教科ごとの公立高校入試はどうだったのか？

英語…昨年並みではあるが、リスニングがやや難化している。全体では例年どおりの大ボリュームで、そこに情報の分散・隠蔽があり、受験者のスタミナを相当削ります。
数学…やはり昨年並みで、ある程度の既視感のあるオーソドックスな問題群ばかりです。ただし細部にとりにくい仕掛けがちりばめられており、英語同様、受験生の得点差が開き気味な科目です。
国語…論説文と資料読み取り問題を中心に易化。素材は多少読みにくいが、設問と選択肢がシンプルで答えやすくなった。
理科…原理の理解を求めるための状況設定にひねりを加えた設問が増えた結果、大きく難化しました。
社会…やや難化。「知識不要」の設問が相変わらず多めで、読解力重視の設問が多いために情報処理に時間がかかり、かつ正解しにくい（正解が絞りづらい）問題が多い。
特色入試…傾向はようやく安定にむかいつつある。受験生をフリーズさせるような難問は減少傾向だが、問2が事実上理系の問題群になった。全体としては、より「公立中高一貫校の適性検査」に接近しつつある。
では、次からようやく神奈川県の教科ごとの分析に入ります。

英語 神奈川公立高校入試問題分析

- 総評と特徴のまとめ -
◎選択問題がほとんどで、設問の複雑さで難易度をあげている。読む英文の量は全国でもトップレベル。活用型問題が多く、その種類も多岐にわたっている。
□リスニング…簡単な時間計算やワークシート読み取り問題を含む。傾向は例年通り。
□語彙・文法問題…指導要領改訂で出題できるようになった使役動詞(**make・let・have**)も出題されている。とはいえ、サービス問題も多く、ぜひ取っておきたい。
□長文：AIがテーマの科学的な英文。グラフ読み取り問題あり。
□対話文：答えを導くまでのステップが多い。活用型問題も多く含まれている。

傾向と対策

大問は8題は昨年通り。構成はリスニング・語彙・イディオム問題・文法問題2題・英作文・長文・対話文2題と、例年と同じ。語彙・文法知識・読解など様々な角度から力が試される。今回の長文はAIに関する内容であった。全国的にも増えてきているテーマである。また問7アのレストランのリスト読み取り問題は、条件整理がやや複雑であった。問7イではストーリーボード的な設問が出題されており、共通テストとの関連性を感じさせる問題となった。問8のグラフ読み取り問題は、消去法でないと解けないというやや珍しいタイプの問題で、今後の出題ふまえ注意しておこう。英作文は条件にある単語がヒントになる。イラストも参考にしながら作るので、英作文といってもそれほど多くの別解が考えられないものにな

っている。語彙・文法問題は難易度が高いわけではないが、知っていなければ答えることができない。単純知識問題は全国的に減ってきているものの、神奈川県では引き続き出題されている。今後も出題される可能性が高いのでしっかり練習しておきましょう。とはいえ全体的に大きな傾向は昨年と変わらない。創研の英語授業を受けていれば当日満点も可能である。

数学 神奈川公立高校入試問題分析

- 総評と特徴のまとめ -
◎作業重視で計算力を要求している。「ていねい」がカギ。昨年よりも解きやすい問題が多い印象だが、資料整理に手間取ると時間が無くなるので注意。
□代数…知識重視のベーシックな問題。基本問題の積み重ねで確実な得点を目指そう。
□関数…図形と融合した問題。図に条件をかき入れ、それをもとに落ち着いて計算するとよい。
□図形…平面・空間どちらも出題。難問であるがオーソドックス。演習問題で数をこなすとよい。
□資料…ルールがつかみにくい。一つずつていねいにまとめて前に進むことが大事。

傾向と対策

全体的に計算や情報整理などの作業量が多い。思考力を問う活用型の問題は大設問5に限られるため、いかに作業を素早く行うことができるかがカギとなる。与えられたグラフや図形に補助線を入れたり、必要な図のみを取り出して新たに書き直したりといった訓練は、早い段階からしておくべきである。形式は昨年とまったく同じ。大設問3・4・6の最終設問にある難問は、解法はすぐ思いつくが計算量が多いので手間がかかり、結果焦りからミスをしてしまうタイプのものであった。一方、大設問1の計算と大設問2の小問集合には、難問はない。ここは毎年3月から実施している中三土曜小テストにをしっかりと向き合っている生徒ならば満点が取れます。大設問5の確率が唯一の思考力を問う問題で、例年同様設定がわかりづらい。問題文をよく読み、表や図をうまく利用して、素早くすべての状況をくまなく調べることが、解答への近道だ。「よく読み、すべて洗い出す」訓練を積もう。

国語 神奈川公立高校入試問題分析

- 総評と特徴のまとめ -
◎9割選択問題のため読む分量が多い。選択肢はセンター試験と似たまぎらわしいもの。唯一の記述問題は会話文から引用して解答できるため、解きやすくなった。
□易化…漢字問題選択化は継続し、出題パターンに変化なし。説明的文章は選択肢が選びやすく、大設問5の記述問題も会話文のマーク部分から引用で解答できる
□選択問題がほとんどのため読むべき文字数が多い⇔選択肢は本文の言い換えが多い。根拠を持って正答を選ぶ練習を！
□全国最大級の文字数に加え、抽象的な内容に対し具体例が少ない難しい説明的文章→マークしながら読み、筆者の主張から離れないようにすることが重要。

傾向と対策

とはいえ易化。昨年の出題形式と同様の問題であり昨年の過去問を解いた生徒にとっては、動揺は少ないと考えられる。漢字問題の選択化による易化はそのまま。説明的文章が「まなざし」という抽象的なものを扱う難解なものであった。上に具体例がほぼない文章という点では難解。しかし選択肢が選びやすく結果的には易化し、全体ではバランスをとっている。大設問5の記述問題は、昨年は会話文から引用するだけでは完全正解とはならず、提示された資料やグラフを参考に読み取った事柄も記述する難問であったのに対し、今年では会話文のマーク部分から解答できる点で易化したと言ってよい。
読む分量が多い神奈川県の問題では、キーワードにマークしながら読む癖をつける。「つまり」「しかし」という語句の直後に、主張があることが多い。マークが問題を解く際のヒントになる。選択問題が増加し、なんと9割を超えた。古文は、主語に必ずマーク。「○○、」や「○○の、」の形が主語を表すこと、「て」で続く行動は基本同一人物であることを知り、主語を特定して読み進めよう。基本だが、尊敬語は偉い人の動作を表わし、同一人物には同程度の敬語が使われることも参考に。大設問5は複線型読解。多くの資料を読む空欄補充形式の記述問題。今年では会話文で繰り返される言葉にマークすることで解答のヒントとなった。やはり、どんなときもマークが有効である。

理科 神奈川公立高校入試問題分析

- 総評と特徴のまとめ -
◎根本原理理解と実験考察の両方の力を要求。全問選択問題だが、解答しにくい工夫が施してある。仮説検証問題も出題。
□物理…実験結果と考察からわかることを取りだす。教科書の実験の「その先」を意識して復習しよう。
□化学…知識を土台にした実験結果考察問題。計算ミスを誘発する設問。理科とはいえ、計算力は身につけておきたい。
□生物…実験結果と考察からわかることを取りだす。現象が起こる原理を理解すること。

□地学…図形イメージも必要な情報処理問題。観察結果をもとに「同じ高さ」を見つけられるかがポイントであった。

傾向と対策

日常における現象・変化の根本原理の理解を問う問題と、実験についての考察・仮説検証問題がほとんどである。数値を利用しない計算問題や、複雑な情報処理の問題などが出題されるため、一筋縄ではいかない。普段から「なぜこの現象が起こるのか」「なぜこのような変化が起こるのか」「これを検証するためにどのような実験を行い、どういう結果が得られると考えられるか」について深く考えることが大事である。例えば、顕微鏡のレンズの倍率を 40 倍から 100 倍に変えるとよく見えるだけでなく、どのようによく見えるのかまで考える。形式は昨年から変化がなく、前半の4問が一問一答型、後半4問が実験・観察からの設問である。すべて選択問題で組み合わせ式や計算してから選択するものなど形式は多岐にわたる。理科用語を直接選択する問題は存在しないが、多くの知識が土台として必要なため、まずは教科書なので用語をしっかりと確認することから始めよう。高津駅前校の小学生向け理科実験教室は本当に受講してほしい。後半の4つの設問は、仮説を検証するための実験をもとに、結果を考察してさらに掘り下げるものである。方法や考察について、計算したり、資料から推測をして解いたり、仮説を確かめる実験と結果を記述したりと、さまざまな角度から深く掘り下げているのが大きな特徴。後半で高得点をとるためには、一問一答型で訓練してきた知識や理解を、一つにまとめる勉強が大事。「結果を導くために行う実験の方法の分類」や「実験を複数の物質で行ったときの結果の違いとその考察」などをまとめ、深く考察しよう。

社会 神奈川公立高校入試問題分析

- 総評と特徴のまとめ -

◎資料活用型重視の傾向は変わらず

資料読取では選択肢の表現に注意で、「割合」を問う問題では今後も続く可能性がある。知識問題と情報活用を組み合わせハイブリット型問題が目立つようになった。

□地理…視点を変えた資料読取問題が頻出。各単元の原理原則の根本理解が必要。

□歴史…「お飾り資料」の減少の一方で、資料・データ問題が複雑化しているのは共通テストを意識か？

□公民…標準問題が中心。知識の正確な運用と資料読取の正確さで差がつく。

傾向と対策

今年度も昨年度と同様、6択や8択のような多岐選択による問題が出題。ここ数年の傾向では、知識(または原理原則)に関する問題と情報活用を組合せた「ハイブリット型」の多岐選択問題がみられる。大設問1の(イ)で出題された「南緯の選択(情報活用)」と「日付変更線に関する知識(原理原則)や大設問6「日本の国家に関する問題」はその一例だ。知識問題でもストレートに問う問題がある一方で、資料・データと組み合わせて問う問題があるため、「資料読取を中心とした問題」は「当然出題される」という前提で、しっかりと対策する必要がある。資料読取問題では、1つのグラフや表に多くの数値やキーワードがある。設問に関する部分には、印をつけるなど目立たせることで少しでも読み返しを減らす工夫が必要だ。また、選択肢の表現にも注意。ここ数年の傾向では「割合」という語句を用いて、数値同士を比較した出題がされている。何と何を比べているのか。資料と照らし合わせて明確な根拠をもって解答する癖をつけよう。今年の特徴としては、歴史分野で資料データ読取がより複雑化したことがあげられる。以前の入試では資料は単なる「お飾り」であって、資料がなくても解答可能なものがあつた。しかしここ数年では、その資料全体の文章量が多く、かつ「何に関する資料か」を理解したうえで解答する問題が増加している。このような問題は大学入試共通テストの性格に近いものがある。まずは習ったことを正確に引き出す力と、資料読取の力をしっかりとつけること。

■**特色検査**について 概況 (ペーパーテスト型自己表現検査)「共通」18校と「独自」2校 (1校と1コース)

□**共通問題**使用校 **横浜翠嵐・川和・希望ヶ丘・横浜平沼・光陵・柏陽・横浜緑ヶ丘・多摩・横須賀・鎌倉・湘南・茅ヶ崎北稜・平塚江南・小田原・厚木・大和・相模原・横浜国際** (国際化IBコースは共通問題+独自問題)

問1 英語読解 自動車の電化についての会話文読解。教科横断あり。ボリュームは大きく時間を奪われる。設問は比較的シンプル。

問2 国語・数学 昨年に続き、文章読解から理数系の設問に続く。テーマは「ホテル」。箱ひげ図の登場で、数学色が例年になく強まる。

問3 算数・論理 「花火」に関する主に算数と論理の問題群。一部、中学数学と歴史が加わるが、小学生でも解ける。

問4 算数・数学 小問寄せ集め型。言語論理と算数・数学的パズル。知識的要素は弱い。県立中高一貫校の適性検査に最も近い。

問5 主に算数 小問寄せ集め型。今年度では最も平易。知識的要素はほぼ無い。パズル的で、中高一貫の適性検査に最も近い。

問6 教科横断 最難問。中盤に家庭科的内容。全体に中学の理数内容と推理・パズルの組み合わせ。(エ)が特に難しい。

問7 主に論理 社会的に見えるが、実質的にはパズル的問題がほとんど。(イ)は横浜翠嵐の2014年特色検査のネタの再利用。

学校	ページ数	設問数	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	共通選択
川和	18	25	○	○	○	○				3+4
湘南	18	27	○	○	○		○			3+5
鎌倉	18	27	○	○			○		○	5+7
希望ヶ丘	18	22	○	○	○			○		3+6
横浜平沼	18	27	○	○	○		○			3+5
柏陽	18	28	○	○		○	○			4+5
横須賀	18	22	○	○	○			○		3+6
茅ヶ崎北稜	18	27	○	○	○			○		3+5
小田原	18	23	○	○		○		○		4+6
大和	18	25	○	○	○	○				3+4
相模原	18	25	○	○	○	○				3+4
光陵	18	23	○	○		○		○		4+6
横浜緑ヶ丘	18	22	○	○	○			○		3+6
多摩	18	23	○	○		○		○		4+6
平塚江南	18	28	○	○		○	○			4+5
横浜翠嵐	18	22	○	○				○	○	6+7
厚木	18	22	○	○				○	○	6+7
横浜国際(国)	18	25	○	○	○	○				3+4
横浜国際(IB)	12	11	○	○						独自

□**独自問題**作成校

横浜サイエンスフロンティア データ読み取りとプレゼン。特にプレゼン記述は、YSFHの校長先生より頂いたお手本を見て、型をおぼえ、先生たちに都度添削してもらうこと。テーマは「行動経済学を背景にした、スローガンと解説作成」。**横浜国際(IBコース)** 問1と2は共通問題・問3は「高齢者の抱える問題」に関する超大型英作文(150~200語)。

高津駅前校に赴任して早20年近くになります。今春の高校受験合格実績はこの20年の集大成といってもよい出来でした(もちろん、これにて私がいなくなるわけではありませんし、叶うならば大好きな高津駅前校で永遠に指導し続けたいです)。実績を盛る塾はありますが、高津駅前校は私が赴任して以来、校舎単独実績のみ開示しております。学校教科書内容を大事に、原理原則を大切にしまいました。一方で、世の中の教育は、詰込みからゆとりへ、ゆとりから思考へと舵を切ろうとしています。ゆとりも、詰込みも、思考もすべて大切なはずなのに、あっちへいたりこっちへいたり、本当に28人ものノーベル賞受賞者を出した偉大な国とは思えないほど、社会(大人)が自信を喪失し、ばたばたと慌てふためいています。

不易流行。いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中で、新しく変化を重ねているものをもうまく取り入れていくこと、をこれからも大切にしていきたいと思います。そして、そういうスタイルを続ける高津駅前校をご支持いただいている保護者様に感謝し、お預かりするお子様を考えうる最高の学力到達点まで、一人ひとり引き上げていきたいと思います。

取材 創研学院高津駅前校 副校長 稗田潤

Will is everything! (情熱こそ!) 文責 創研学院高津駅前校 校長 福阪和重

2023年（中学受験コース版・初夏だより） ～ 首都圏私立中学入試の動向と分析一序章 ～

今年首都圏私立中学入試を振り返る前に、まずは創研学院高津駅前校の校舎単独合格実績を改めてお知らせします。

☆ 中学受験コース6年生 男女15名☆

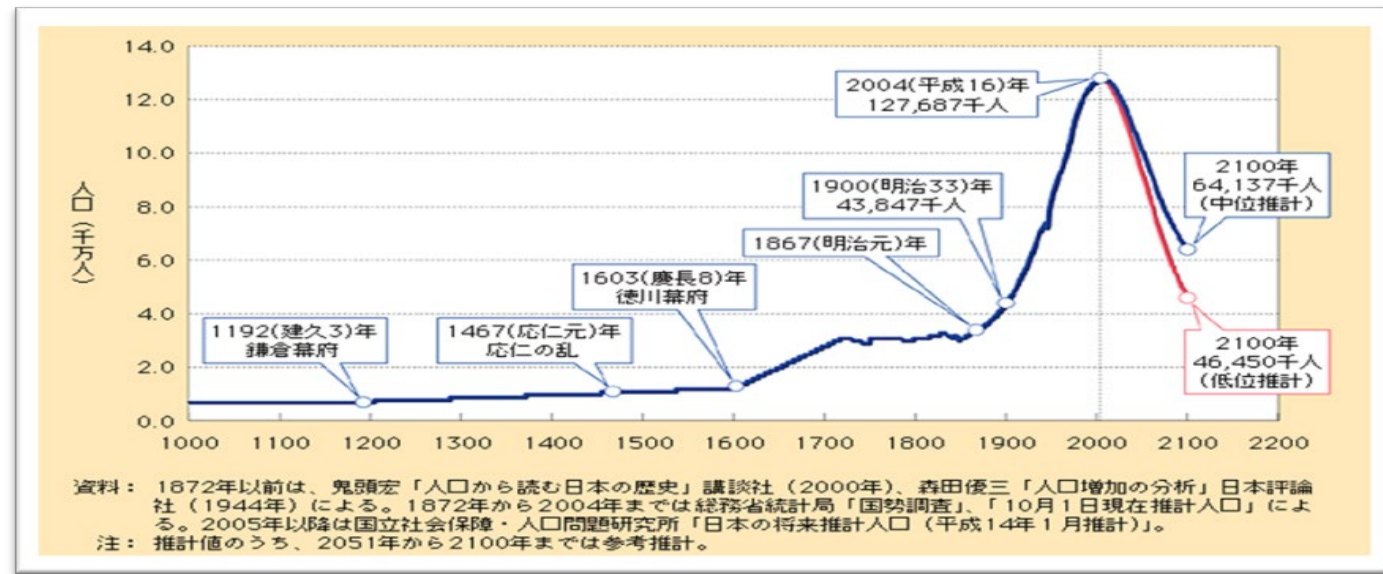
世田谷学園2・法政二1・青稜2・都市大等々力特選3・栄東2・田園調布学園3・日本女子1・昭和女子大2
実践女子3・日本大学（グローバルリーダーズ）1・カリタス2・日大豊山1

☆ 高校受験コース3年生 男女24名☆

川和3・都立国際1・多摩1・新城2・横浜平沼1・市ヶ尾1・生田1・法政国際1・法政二高3・中大横浜2
日大日吉SG1・東農大2・桐蔭学園（プログレス2・アドバンス2）・青稜1・都市大等々力1・目黒日大1

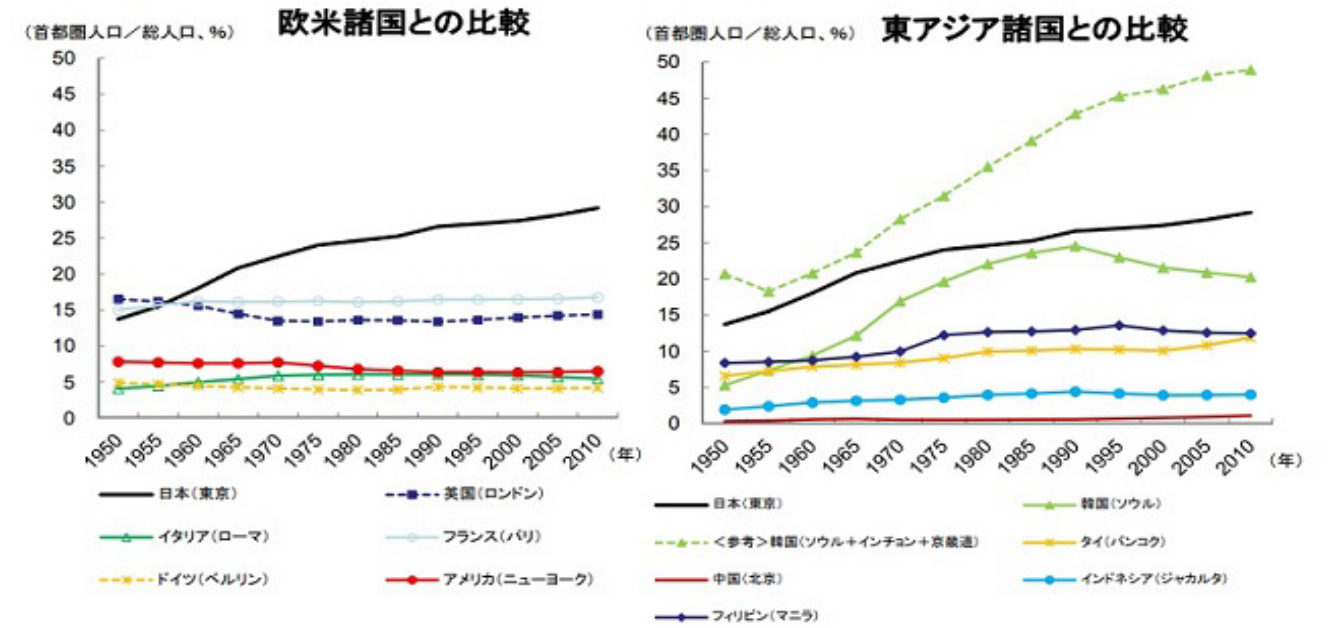
1 今後の首都圏私立中学入試の動向

上記の実績をどうとらえるかは、現在の首都圏（とりわけ東京都・神奈川県）の小中学生（引いては高校生）が置かれている受験状況（背景）を把握しておかないと正しい理解は難しいと思います。まず総務省が発表している人口動態の長期的推移・中期的推移を見てみたいと思います。どちらのグラフを見ても、どう転んでもこれからの日本の人口急減は不可逆的な流れであって、今さら政府が少子化対策をしても焼け石に水であることがわかります。



少子高齢化は何も日本に限らず、先進国特有の現象ではあることは皆さん重々ご承知でしょうが、日本の場合はあまりに極端なものです。ここまで14歳以下の人口が少ないのを見ると、一昔前とちがい今の入試は、どの段階でもやはり楽なのではないか？と思われる向きもあるかと思えます。それはおおむね正解なのですが、首都圏だけは的はずれというのが正解です。

以下は国土交通省が発表している、欧米・東アジア諸国における首都圏への人口集中度を示すデータです。グラフを見ても明らかなように、国土交通省自ら「東京圏への人口集中は諸外国でも類を見ない現象。東京への人口移動は、ほとんどが若年層によるもの。東京圏への金融業や情報通信産業などのサービス業の集中を背景とした雇用機会の存在が継続的な人口流入を引き起こしている可能性（がある）。地方中核都市は、必ずしも、東京圏への人口流出抑制するダム機能を十分果たしているとは言えない可能性がある。」と冷静に分析しています。いや国土交通省自らが暗に東京（人口規模1000万人以上のメガシティ）以外の都市は今後衰退していく流れであることを黙認しているような記載です。

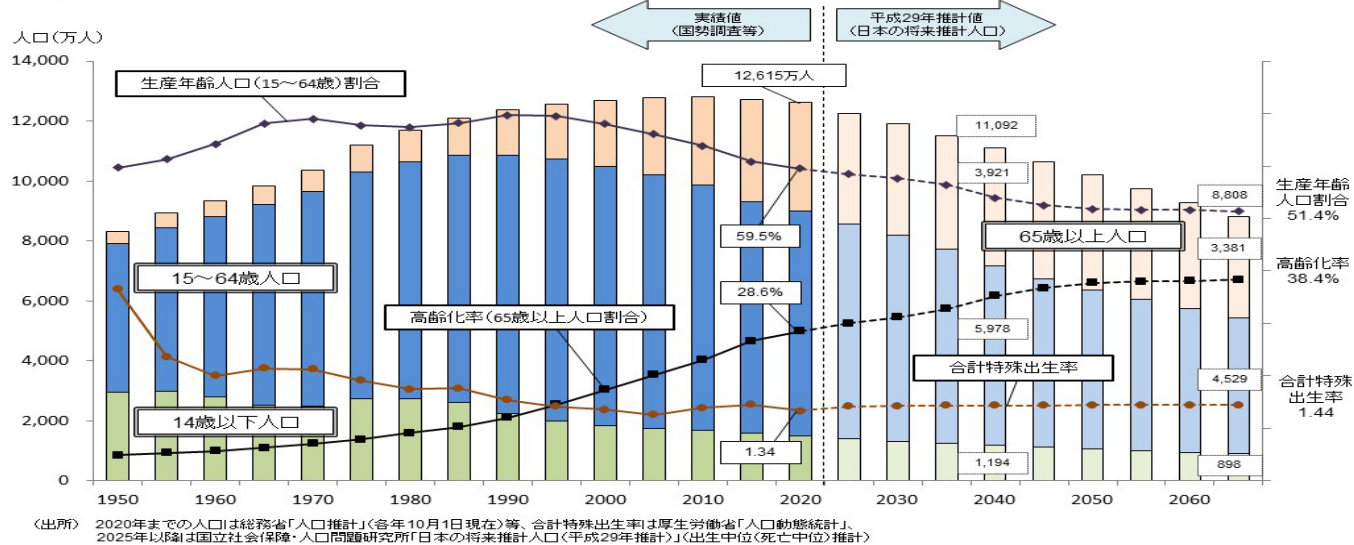


かなりの回り道をしましたが、他の地域はどうあれ、首都圏（とりわけ東京・神奈川）は、引き続き、厳しい入試が中学入試・高校入試・大学入試の各ステージでしばらく続くということを改めて認識していただければ幸いです。また私自身はこの首都圏の苛烈な競争を若者の心身を鍛える上で素晴らしいものだと肯定的にとらえています（とらえるしかない！）。

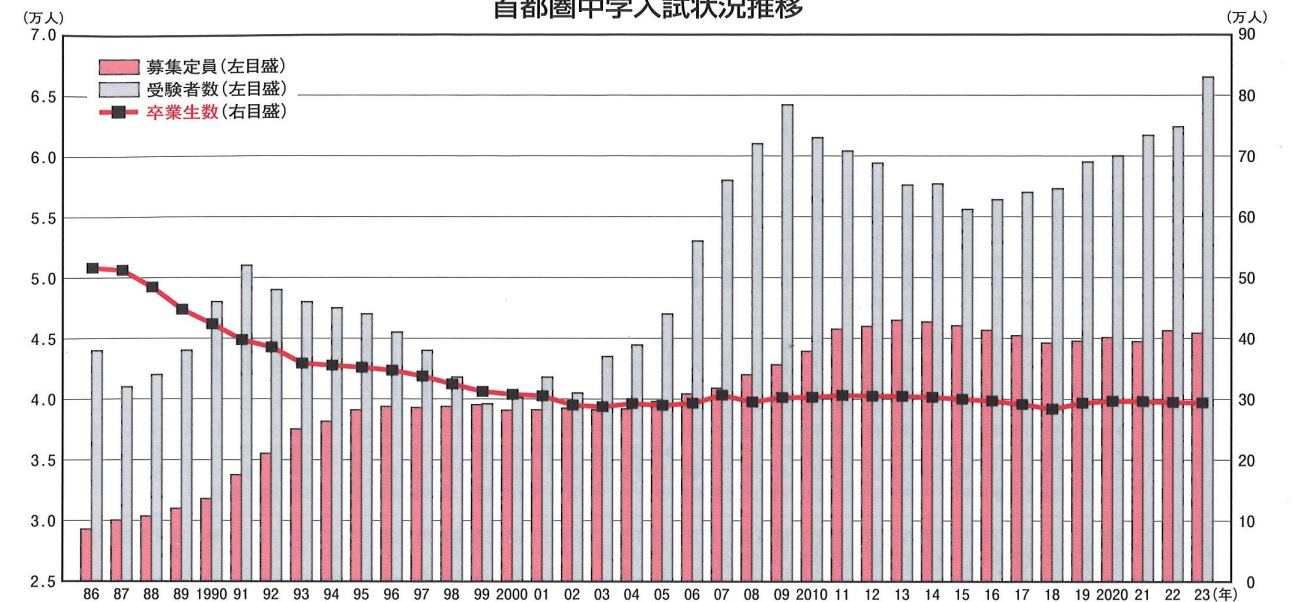
以下、近年の首都圏中学入試状況推移です。ざっくり言って、学校は選ばないからどこでもいいから入学したいと思っても4~5分の1の受験生が必ず全滅、なんとか行きたい学校に入るために一生懸命勉強してどうにか全滅は回避できても、多くの生徒が第一志望ではない学校に行かざるをえない状況（受験者数に対して私学の定員がまったく足りない状況）にあり、この需要過多な状況は当面続くこともご理解いただけるかと思えます。

日本の人口の推移

○ 日本の人口は近年減少局面を迎えている。2065年には総人口が9,000万人を割り込み、高齢化率は38%台の水準になると推計されている。



首都圏中学入試状況推移



2 今春の首都圏中学入試の四科目の動向

国語

今年の入試問題を、素材となった文章と設問に分けて見ていこう。文章でみられた傾向の一つに、「多様な価値観の混在」があった。これまでも、同質的な集団内における価値観の相違が語られることは珍しくなかった。しかし今年、異質な個人、あるいは異質な集団・社会が混在する状況に言及した文章が、論説、物語等ジャンルを問わず目についた。また、SDGs の浸透といった社会変化の影響もあってか、「相手の立場や背景にまで寄り添って共感することの価値」に触れる文章も少なくなかった。さらに、人間関係や文化・伝統の「つながり」を話題とした文章も目立った。その背景には、ロシアのウクライナ侵攻などによって引き起こされた様々な分断や破壊への懸念があるのかもしれない。

設問では、まず、図表や絵を用いた問題の増加が目をついた。言葉によって表された内容を、視覚化して非言語表現に置き換える。高等教育において、情報を他者と共有するうえで欠かせない能力が問われていると言えるだろう。また、大学入学共通テストでも注目された、他者の理解を通して自らの認知と向き合う対話形式の設問も増加傾向にあった。「正解のない時代」を生きていく子どもたちが、複数の意見(選択肢)とどのように向き合い、論理的に答えを導き出すのか。私学が目目している設問の一つと言えそうだ。

算数

昨年度は、大学入学共通テストをふまえた対話形式での出題や統計分野の問題といった一目でわかる特徴が見られたが、今年形式や分野に特徴があまり見られなかった。

その代わりに、内容的な変化として問題自体の複雑さが全体的に際立っていた。複雑さには、大きく分けて二つの特徴があった。一つはこれまで子どもたちが触れてきた問題をひねっている点で、もう一つは提示された条件が多く、長文化している点である。両者に共通して求められるのが「読み解くチカラ」である。ここでいう「読み解く」が指すのは、提示された情報をそのまま受け取るだけでなく、仕組みや構造を理解することまでを含む。また、これまでに学んできた事柄との共通点や相違点をさぐったり、関係を抽出して図や表に整理したり、作業をしながら情報を増やしたりするための起点を作るのも「読み解く」ことである。そうすることで、これまでに身につけてきた知識や技術を選択し、使っていくことができるようになる。「読み解く」ことをしたうえで、どのように調べ、整理し、筋道を立てていくのかを自分で判断するという一段階上の力を学校側が求めていると言えそうである。

時事問題の要素は今年も見られた。特に、数学とのつながりとして「コラッツ予想」を題材にした問題を多くの学校が取り上げていた。他にも、日常とのつながりとして「コロナ禍での対応」や西暦の「2023」を意識した問いも見られた。

理科

理科の入試問題では、身のまわりで起こっているさまざまな現象について、さまざまな視点で情報を読み取り、筋道立てて状況をとらえる力が試されている。題材としては、天体現象に関する問題、電流や電力に関する問題、台風や大雨、火山、地震などの自然現象と防災に関する問題、SDGs を背景とした問題などが取り上げられていた。

日常生活という視点で見た場合、身のまわりで見られる現象が起こる仕組みを、身につけた知識や経験と結び付けて判断したり、提示された情報をもとに、状況を判断したりする力が問われている。また、地球規模の幅広い視点で見た場合、食物連鎖や環境問題、エネルギーなどを題材として、これまでに学んだことと組み合わせる筋道立てて状況をとらえ、課題を解決する力が問われている。

問題形式に目を向けた場合、記述問題では、原因と結果の関係に目を向けて、実験結果からわかることを記述する問題や、さまざまな現象が起こるしくみを、知識や経験をもとに、問題の状況に対応させて記述する問題が多く出題されている。さらに、計算問題では、複雑な計算処理を行う問題は減少傾向にあるが、てこのつり合いや電流のように、一定の条件のもとで必ず成立するきまりや関係をもとに計算を行い、状況をとらえていく問題は、引き続き多く出題されている。

このように、理科の入試問題では、幅広い題材を、さまざまな視点で分析し、状況をとらえていくことが問われている。その際、情報を読み取る力、情報どうしを結びつけて整理する力、筋道を立てて状況をとらえる力が、特に必要とされている。

社会

2022 年初めのロシアによるウクライナ侵攻は、戦争や核兵器の脅威を世界中の人々に再認識させた。また、エネルギーを中心にさまざまな物価が高騰し、コロナ禍を乗り越えて経済活動を再開しようとする各国を直撃した。この影響は日本にも円安とともに降りかかった。さらに参議院議員選挙の結果、憲法改正が現実味を帯び、18 歳になれば選挙権を持つ成人となる受験生にとっても他人事ではない。

入試でこうしたテーマが多く扱われることは、社会科の学びが遠い世界の話ではないことを受験生に投げかける。日本で、世界で、いま何が起きているのか。原因は何か、背景にどのような事情があるのか。それは私たちの生活にどう影響し、私たちに何ができるのか。ことがらどうしのつながりをとらえ、さらに自分とのつながりをさぐる姿勢が求められている。

昨今の中学入試で問われる知識は、教科書の内容と世の中でとくに問題になっていることが中心で、難解で細かい知識が問われることは減っている。ただし、文章の正誤や、記述、資料・史料の読み取りなど多様な形式の問題を通して、そのことがらが何と関係しているのか、その原因や背景、影響をとらえられているのかなど、知識の確かさ・深さ・広がりなどが試される。多量の情報と向き合いながら、問いかけをよく読み、「作問者と対話すること」の重要度も高まっている。

3 気になる各私学の動向や新着ニュース

今回は高大連携についてです。ご存じの方もいらっしゃるかとおもいますが、近年、私立中高一貫校と大学の連携がさかんにおこなわれています。以下がその一覧です（一部抜粋）。

学校名	提携大学	備考
玉川聖学院	東京女子大学・明治学院大学・武蔵大学・神奈川大学 東洋英和女学院大学・清泉女子大学	2009 年の明治学院を皮切りに、続々と連携を強化中
カリタス女子	東京外国語大学・東京農工大学・北里大学	2021 年以降に連携
鷗友学園女子	東京外国語大学	2021 年に連携
吉祥女子	東京外国語大学・東京農工大学・国際基督教大学・東京学芸大学 順天堂大学	2015 年～2021 年に連携
恵泉女学園	順天堂大学・東京女子大学	2021 年以降に連携
田園調布学園	北里大学	2022 年に連携
豊島岡女子学園	工学院大学・電気通信大学・東京電機大学・東京慈恵会医科大	2019 年に連携
三輪田学園	法政大学	2015 年に連携。2022 年に学校推薦型選抜枠で 30 名
山脇学園	芝浦工業大学・昭和女子大学・学習院女子大学・北里大学	2022 年以降に連携
横浜女学院	東京女子大学・成城大学・武蔵大学・國學院大學・東洋英和女学院大学	2017 年の武蔵大学以降、続々と連携を強化中
東京女学館	北里大学	2023 年に連携
東京純心女子	東京薬科大学・東京女子大学・北里大学	2021 年以降に連携
横浜雙葉	上智大学	2023 年に連携
昭和女子大学	昭和大学・芝浦工業大学	2017 年以降に連携
捜真女学校	東京女子大学・東洋英和女学院大学・明治学院大学・北里大学 神奈川大学・清泉女子大学・昭和女子大学	青山学院大学にも 25 名の学校推薦型選抜枠あり
聖セシリア女子	麻生大学	2021 年に連携
郁文館	日本医科大学	2019 年に連携
芝中学	東京慈恵会医科大学	2021 年に連携
城北	順天堂大学	2023 年に連携
工学院大学附属	麻生大学・電気通信大学・東京経済大学・東京薬科大学・多摩美術大学	2020 年以降に連携
早稲田実業	日本医科大学	2020 年に連携
栄東	芝浦工業大学	2022 年に連携

2021 年より大学入試は、従来の一般入試が一般選抜へ、A0 入試が総合型選抜へ、推薦入試（指定校推薦）が学校推薦型選抜へ変更されました。駿台・河合塾・代ゼミといった大学受験予備校が衰退してきているのも、何も 18 歳人口が減っているからだけではなく、そもそも一般選抜・推薦入試の入学枠が減り、総合型選別の比重が国公立私立を問わず増してきているからです。もしかしたら一般選抜つまりは当日のペーパーの発勝負の枠は 10 年後にはなくなっているかもしれません。

高大連携の目的は「大学にふれること」です。大学からの出前授業・大学への訪問・大学からの大学生（院生）の派遣・大学と高校の共同研究を通じて、大学ひいては社会で必要とされる探求型の学び（1. 自らが課題を設定し、解決に向けて情報を収集分析する。2. 周囲の人と意見交換や協力をしながら進めていく学習活動。）を中高のうちに身につけ、結果として大学入試の総合型選抜の備えにつなげることとなります。もちろん注意しないといけないのは提携したからと言って、すぐさま「推薦枠」がもらえるわけではないということです。しかしながら、大学の学びに早い段階からふれるということは、総合型選抜で必要とされる知識・技術を早期に体感でき、それに備える時間をたっぷり確保できることにもつながります。まさに大学と私立中高の双方にとっていいことだらけと言ってもよく、校風や偏差値や合格実績だけで私学を選ぶのではなく、どういった大学と提携・連携しているかで選ぶのも今後は学校選びのカギになっていくのかもしれません。

4 おまけ

最後にいつものおまけ。一年を通して保護者様と面談させていただいております。また一年を通して生徒に授業をしています。同じ先生が同じ生徒・保護者様に授業や面談を通して同じ熱量で話しているのに、ある子はぐんぐん伸びて、ある子はなかなか伸びずに足踏みしている。この差は何なのか？この差をうめて全員ができる子になるように、お子様の勉強法がまちがっていないかチェックです。このGW 期間中長いお休みをいただきましたので、手元にある「超勉強法」(野口悠紀雄 講談社)・「勉強の手帳」(安河内哲也 あさ出版)・「何歳からでも結果が出る 本当の勉強法」(望月俊孝 すばる舎)などを読み返しつつ、以下にまとめてみました。

1 完璧主義はダメ！完成主義でいこう！

小学生のテストは昔も今も 100 点をいかにとるか、つまり教科書の内容をいかに完璧に頭にたたきこむかに重きが置かれています。しかしながら中学入試の問題はよくできて7割、通常は6割が合格点です。ですから本番のテストも模試もちろん普通のテキストもそのように作られています。親も子も完璧主義がしみついていると、たちまち中学入試の質量の膨大さ（ここまでやれば大丈夫という範囲がないのが範囲）にのみこまれてしまいます。だからこそ、高津駅前校では早めに過去問題に取り組んでもらっています。6年生の前半には自分の志望校の問題を入試本番とそっくりの時間で解いてもらい、福阪・稗田が全教科の添削を行います。それは志望校の正体を早く知るためです。256パターン。主要私学の4科目の問題パターンの組み合わせはそのくらいあると言われています。一方で勉強時間は有限。いや極めて短い。勉強に使える頭がイキイキと動く時間はさらに限られています。あれもこれも完璧に仕上げようとするのではなく、自分の志望校に受かるために必要なことだけを完成すればよいのです。

2 学習とは一つでも多く正解することではなく、一つでも多くのまちがいに早く気づくことの方が大切である。

多くの塾は志望校の過去問題を6年生の秋以降から本格化させます。高津駅前校のように5年の後半もしくは6年の前半から本格化させる塾は少ないと思います。先んずれば人を制すと言いますが、ライバルよりも早く、ライバルよりもたくさんまちがいに気づき、そこに向き合い考える時間を確保することこそが成功への近道に決まっています。それなのに、そんなに早くからはじめて子供が自信を失ったらかわいそう、そんなに早くから過去問題に取り組ませて自分の力のなさを痛感させてしまっては塾を辞められて売り上げが確保できなくなるといった、親の、塾の、つまらないプライドやエゴで子供は成功への道を閉ざされています。

3 勉強とは学校や塾の授業で学んだ内容を思い出す練習であり、思い出そうと脳内を何度も検索することで定着し、定着させるためには毎日少しづつの勉強が肝心である。

福阪の授業は全教科すべてオリジナルプリントで行っています。日付・名前を書く欄があり、時系列で整理するよう口酸っぱく授業で伝えています。とりわけ中学受験の小学生にはテキストに小テストをのりでその場で貼りつけるよう指示しています。いわゆるぴったんこタイム！オリジナルプリントは教科書の要点を圧縮しつつも、教科書内容を超えた新しい情報（教科書改訂は3〜5年ペースでしか行われな一一方で、我々の生きる世界の情報は日々更新されていく）をその都度足したものです。そこまではすべての生徒が同じでも、授業で学んだことをお父さん・お母さんに伝えなさいと言うと、授業そのものではなく、私の話した息抜きの雑談（犬のボン太くんの話など）ばかり親に伝えている子がいます。なぜか？絵的にイメージしやすく伝えやすいからでしょう。一方で学んだばかりの授業内容はまだあいまいで、イメージを結べるほどくっきりとしてはおらず、なんとか思い出そうと頭の中に検索をかけないと親の前で再現することは難しく、とてもしんどい作業です。ましてや授業後の脳はひどく疲れています。どうぞ寝ていただいてかまいません。寝ることで明らかに重要でない情報は脳から消去され、また十分な睡眠をとることで脳の神経系は修復され、忘れてしまった（消えてはいない！）情報の再定着を促すことを現代の脳科学は証明しています。ですから一夜漬けや短期集中で知識を脳にドカ食いさせるなどもつてのほか。早寝早起き、正しい就寝時間にたっぷり睡眠をとり毎日コツコツ勉強することで、早くて正確で強靱な記憶回路を構築することができます。

4 勉強はただ長く多くやればいいのではない。決まった時間に、決まった量を、締め切り（制限時間）を意識して毎日続けなければ効果はうすい。

塾としては計画的に、長期的にゆるぎない学力を身につけてもらうべく、子供のその時点での学力に見合った適量の宿題を出しているのですが、うちの子はすぐに終わらせてしまう、だからもっと宿題を多く出してほしい、あまりに保護者様がおっしゃるので、ため息を心の中でつきつつも、仕方なしに宿題を増やします。すると大急ぎで子供は宿題をすませるようになるので、確かに速くできるようにはなるのですが、案の定、荒く、浅く、うすく思考が散らかった状態で問題を解く癖がつくので、ただただ問題に向き合う時間だけが長くなり、正答率は下がり、わからないという状態になります。逆もまた真なりで、もっと宿題を少なくしてほしいというご要望も、この程度の宿題なら気が向いたらやればいいという変な余裕ができてしまい、決まった時間に、決まった量をやる学習習慣は一向に身につきません。中学入試も高校入試も大学入試も、決まった制限時間内にもてる知識や技術を答案に正確に出し切った者

が評価されます。制限時間や締め切りを日々意識することで、つまりは日々集中し自分を追いこむ習慣を身につけることで、スポーツ選手でいうところのゾーン（全能力開放！）に脳が入りやすくなり、結果、高得点に結びつきやすくなります。大人の法定労働時間だって8時間。脳が生産的な活動ができるのは一日のうちせいぜい8時間しかないのです。子供ならばなおさら、眠たい目をこすりながら深夜まで勉強することに何の意味もありません。また今日はずーっと算数ばかり、明日はずーっと国語だけ、週末だけ理科社会をやる、こんなのもダメです。ごちゃ混ぜでよいのです。本番の中学入試の試験は一日で算国理社4科目で午前・午後のちゃんぼん状態。さらに近年の入試問題そのものが科目横断・融合のごちゃ混ぜです。普段の家庭学習から脳をこの複雑さに慣らしておかないと（1日の中でこまめに時間を区切って4教科の勉強をうまく振りわけないと）、上位校の総合問題・応用問題を解くなど夢のまた夢です。

5 手書きの方が記憶の定着率は高い、いや自らの声で音読の方が記憶の定着率は抜群にいい。

いまの中学入試の範囲は広大です。ざっくり言って公立中学校の3年間分の先取り、いやもう範囲の制限はなくなっているのではないかと私自身恐々とすることがあります。それほどの範囲量の知識をどう記憶させればよいのか？やはり手書きです。自らの目・耳を通して自分の中に入ってきたものを、自らの手を使って文字におこすというのは、よくよく考えてみれば input(入力)と output(出力)を同時に行うことであり、主体的に行わなければ実現しないことで、授業中にメモをするということは、福阪や稗田の授業の時間を自らの時間に変えているということになります。授業中であれメモもせず発表もせずただそこに座っているのは、他人の時間にお付き合いして自らの貴重な時間を一方的にささげているだけの奴隷状態ですから、ただただ苦痛で楽しいわけがありません。

私が入塾前面談で保護者様としっかりとお話し、生徒には2週間じっくりと無料体験をしてもらい、学力ではなく福阪といるのが居心地がいいかどうかを確認しているのは、そこをクリアすれば学力が上がる条件がすでにできていることになるからです。先生がころころ変わる、クラス替えがころころ行われる、教室長がころころどこかへ移動する、そんな塾やましてや学校に行って伸びるはずもありません。居心地がいいから恋人になり、夫婦になり、ずっといっしょに暮らしているのに、居心地がいいから今の会社・役所にいて成果を上げて稼いでいるのに、なぜか塾選びはそうではないのはおかしな話です。また記憶の質と量は体感した時間に応じて増えると言われています。メモ以上に効果的なのが音読です。音読（声に出すこと）こそ体感そのものです。うちの子授業ではあまり声は出さないみたいなんですけど家ではよくしゃべる子なんです、と聞くと私は内心ほっとします。また自宅で教室にはいなかった親を前にして授業内容を物語るができるというのは、かなり高度な input(入力)と output(出力)を同時に行っていることになります。男子によくあるのですが、ノートもまともにとらないし字も汚いの成績がそこまで悪くない子は決まっておしゃべりですし、これまた女子でよくあることですが授業中しっかりノートはとっているけど家ではあまりしゃべらない子の成績はいまいちです。自宅では思いっきり子供を主役にして授業内容やその日の出来事を語らせてほしいと思います。また中学受験コースの4〜6年生にはお盆休みまでに日能研読書ガイドを参考に読書課題を出しています。章ごとに区切りをつけて、その感想を子供に発表させる機会を設けてもよいし、大学のゼミのように親子で意見交換しあってもよいでしょう。

6 気合いや反省など何の意味もない、目の前の課題に具体的に計画的に取り組むかだけを考えよう。

反省しろ！やる気を出せ！うんざりする言葉です。精神的な反省や声だけが大きい気合いは、勉強にむかうエネルギーを削いでいると私は思います。なぜまちがえたのか？次にどうすればそのまちがえを回避できるのか？といった技術的な反省だけをコツコツ自らに刻む。勉強のエネルギーは課題（まちがい）の分析にのみ注いでほしいと思います。私と稗田はともに30年近くこの業界におり、多くの受験生の成功と失敗を見てきています。その経験は伝え方と受け取り方次第で、現在の受験生にとって他人の経験という古ぼけた過去ではなく、自らの未来の成功につながる予見に変えることができます。私も稗田も指導を通じ、受験生をよりよい未来に導くことしか考えていませんので、授業中は集中して話に耳を傾けてください！

7 改めて問う！勉強に適した自分だけの環境（ホームグラウンド）づくりが本当にできているか？

電車の中吊り広告、コンビニの看板。いつの間にかおぼえます。自室の壁・ご飯を食べるテーブル・トイレの壁。自分自身の生活空間にも同じように勉強広告（自分自身の脳におぼえさせたいこと）を掲示する。机だけが勉強の場ではありません。机にむかってじっとすわり続けることは「動」物たる我々には土台無理なことですし、血流が悪くなり、致死率を上げます。またスマホは視力だけでなくいちじるしく認知能力を下げる（アホになる）ので、勉強の間くらいは親に預けましょう。

創研学院高津駅前校

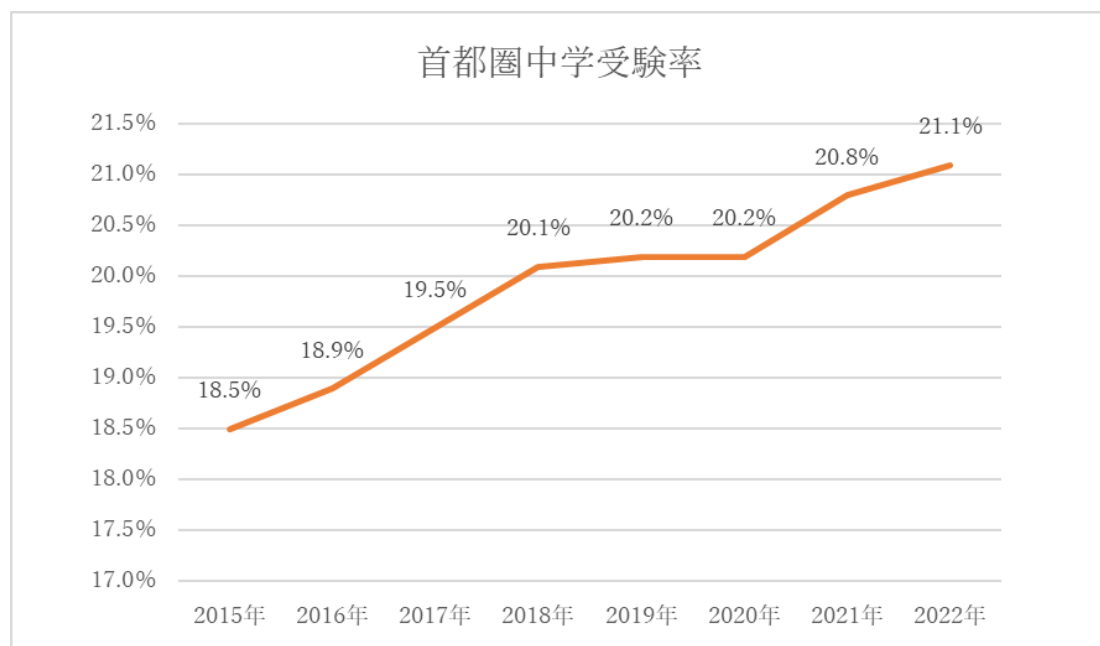
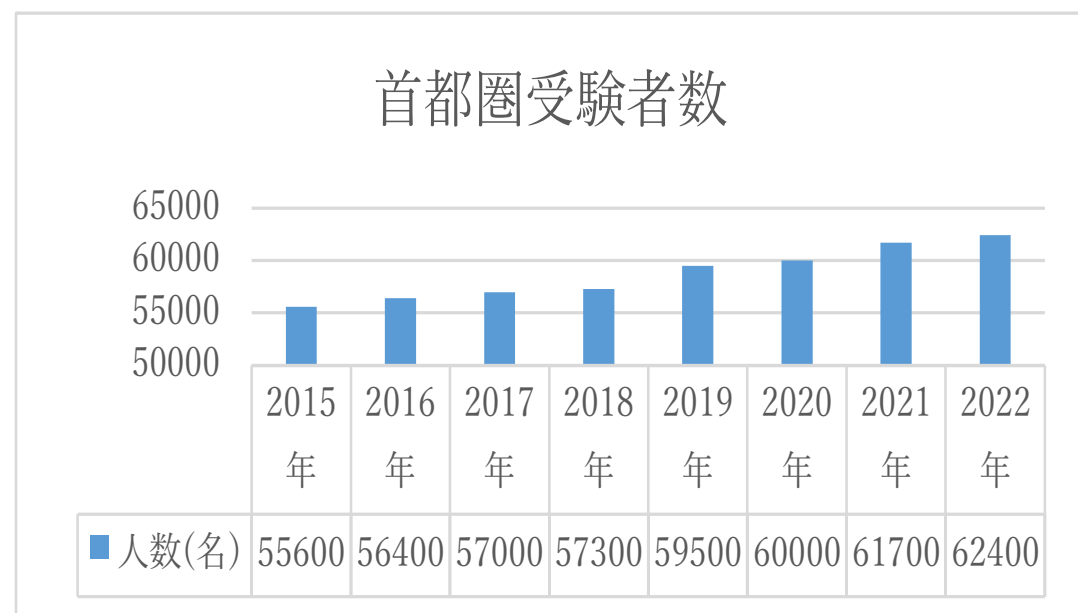
この厳しい受験状況の中で、全生徒によりよい進路に進んでもらうために、入塾から合格まで同じベテラン正社員教師による少人数制授業という高津駅前校のかたちを引き続き継続し、ライバルよりも一点でも多く得点できる答案作成力を身につけ、磨いてもらう。そのために日々の授業や宿題チェックを第一にしていきたいと思います。可能ならば中学受験は小学2・3年から、高校受験は小学4・5年から創研学院に通塾いただけると幸いです。今後ともどうぞよろしく願います。

Will is everything!（情熱こそ！）

創研学院高津駅前校 校長 福阪和重・副校長 稗田潤

1 今春の首都圏中学入試の動向

Japan will eventually cease to exist.（ゆるやかにだが日本は必ず滅びるだろう。）イーロン・マスクにわざわざツイートされるまでもなく、日本の少子化そして人口減少は明らかです。しかしながら以下の表でも明らかなように、東京・神奈川の中学受験率は年々右肩上がりの上昇となっています。この受験生増加の要因を要約すると、長引くコロナ禍における私学の柔軟な対応への信頼感の定着、教育資金の充実（世帯年収（＝パワーカップル）の増加と公的助成の充実）、今後の社会で求められる非認知スキル・持続型学習に対する私学への期待感などが挙げられます。私自身、かつて配布したばかりに「グローバル化対応やSTEAM（Science・Technology・Engineering・Art・Mathematics）教育など、10年・20年後に社会で必須となる能力の育成の必要性を感じている保護者が多く、コロナ禍でも良質の中高一貫教育を！という意識から中学受験の断念は考えなかったこと、コロナ禍でも中高一貫校では、双方向通信の利用や、授業動画の視聴だけでなく、その後に入念なフォローアップを実施した学校が多かったこと、また高校段階になると私立学校通学者に対しての学費支援が充実してきたことから従来よりも6年間計の中高一貫教育の学費負担が軽減されてきたこと」と記載しましたが、その認識に今なお変更はありません。



首都圏 入試日別応募状況一覧
2022年入試

		1月19日以前	1月20日～31日	2月1日		2月2日		2月3日		2月4日以降	合計
				午前	午後	午前	午後	午前	午後		
入試数	男子校	9	1	33	12	21	8	14	5	31	134
	女子校	8	4	81	58	57	43	31	23	74	379
	共学校	143	72	102	81	76	65	33	29	139	740
	国立校	1	1	1	0	0	0	9	0	1	13
	公立校	17	3	2	0	0	0	16	0	0	38
	合計	178	81	219	151	154	116	103	57	245	1,304
定員	男子校	235	100	3,521	391	1,728	213	947	60	870	8,065
	女子校	385	155	5,112	1,552	2,051	922	591	363	952	12,083
	共学校	4,396	2,473	4,999	2,241	2,172	1,296	920	461	1,570	20,528
	国立校	30	60	140	0	0	0	658	0	40	928
	公立校	1,320	320	11	0	0	0	2,384	0	0	4,035
	合計	6,366	3,108	13,783	4,184	5,951	2,431	5,500	884	3,432	45,639
応募者	男子校	2,695	1,802	12,073	4,217	10,535	2,138	8,238	1,383	10,370	53,451
	女子校	4,782	1,898	13,274	9,327	11,402	7,036	6,821	4,096	8,805	67,441
	共学校	50,906	23,238	20,812	17,463	17,141	15,166	9,753	7,236	23,911	185,626
	国立校	—	600	334	0	0	0	2,852	0	207	3,993
	公立校	4,849	2,323	7	0	0	0	11,512	0	0	18,691
	合計	63,232	29,861	46,500	31,007	39,078	24,340	39,176	12,715	43,293	329,202
倍率	男子校	11.5	18.0	3.4	10.8	6.1	10	8.7	23.1	11.9	6.6
	女子校	12.4	12.2	2.6	6.0	5.6	7.6	11.5	11.3	9.2	5.6
	共学校	11.6	9.4	4.2	7.8	7.9	11.7	10.6	15.7	15.2	9
	国立校	—	10.0	2.4	—	—	—	4.3	—	5.2	4.3
	公立校	3.7	7.3	0.6	—	—	—	4.8	—	—	4.6
	合計	9.9	9.6	3.4	7.4	6.6	10	7.1	14.4	12.6	7.2

この夏またじわりと増加傾向にあるコロナに対する私学の対応に対しても、昨年のだよりで私は以下のように記載しています。「さらに受験者増加の要因を深堀りするならば、第一に挙げられるのは2020年春コロナ禍で休校時の際の、私学の対応とその後の充実ぶりがあげられます。思い起こせばコロナ禍真ただ中の昨春、ほぼ機能停止となった公立に対し、ICTをいち早く導入・活用し、手探りでありつつも指導に大きな停滞を生じさせなかった私立。この事実はとても大きく、変化に呆然と立ち尽くすのみであった公立と、ピンチを見事にチャンスに変えた私学という構図が多く保護者様のイメージとして出来上がったという過言ではないでしょう。実際、我々の思っている以上に多くの私学ではICTの一般化が進んでいます。ほとんどの私学では、一人一台の端末と各教室の大型モニター、Wi-Fiなどのハードは整備完了し、コロナ禍の中で蓄積してきた知見をもとに、課題の配信・提出・採点・返却をすべてICT上で行ったり、ICTと一見すると親和性が低いように思えた音楽や技術などの副教科がICTの力によってよみがえり、活性化しています。」と。やはりこの認識にも変更はありません。

2 いよいよせまる2024年大学入試について

次に新大学入試についてお話しします。2024年から本格稼働する新大学入試（今春より高校教科書大改訂）は、以下の3つの選抜方式に整理されます。大まかに言って、各私立大学は一般選抜でとる学生の枠を減らす方向にあります。そのこともまた中学入試を過熱させている一要因なのですが、結論を急がず、まずは目を通してください。

一般選抜（←旧「一般入試」から改称）

概要 → 調査書の内容・学力検査・小論文・入学志願者本人が記載する資料の他、エッセイ・面接・ディベート・集団討論・プレゼンテーション・各種大会や顕彰等の記録・総合的な学習の時間などにおける生徒の探求的な学習の成果等に關する資料やその面接等により、入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する入試方法。

時期 → 学力検査を課す場合の試験期日は2月1日～3月25日　結果発表は～3月31日まで

学校推薦型選抜（←旧「指定校推薦入試」から改称）

概要→出身高等学校校長の推薦に基づき、調査書を主な資料として判定する入試方法。この方法による場合は、以下の点に留意する。

①「見直しに係る予告」で示した評価方法等（例えば、プレゼンテーション・口頭試問・実技・各教科・科目に係るテスト、資格・検定試験の成績等）又は大学入学共通テストのうち少なくともいずれか一つを必ず活用。

② 推薦書の中に、入学志願者本人の学習歴や活動歴を踏まえた学力の3要素に関する評価や、生徒の努力を要する点などその語の指導において特に配慮を要するものがあればその内容について記載を求める。

③ 募集人員は、学部等募集単位ごとの入学定員の5割を超えない範囲で定める。

時期→出願期間は11月1日～　結果発表は12月1日～（一般選抜の試験期日の10日前まで）

学力調査を課す場合の試験期日は2月1日～3月25日

総合型選抜（←旧「AO入試」から改称）

概要→詳細な書類審査と時間をかけた丁寧な面接等を組み合わせることによって、入学志願者の能力・適性や学習に対する意欲、目的意識等を総合的に判定する入試方法。

①入学志願者本人が記載する活動報告書、大学入学希望理由書及び学習計画書等を積極的に活用。

②入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する。なお、高度な専門知識等が必要な職業分野に求められる人材養成を目的とする学部・学科等における選抜では、当該職業分野を目指すことに関する入学志願者の意欲・適性等を特に重視した評価・判定に留意。

③「見直しに係る予告」で示した評価方法等（例えば、小論文等、プレゼンテーション、口頭試験、実技、各教科・科目に係るテスト、資格・検定試験の成績等）又は大学入学共通テストの少なくともいずれか一つを必ず活用。

時期→出願期間は9月1日～（令和3年度は15日～）　結果発表は11月1日～

学力検査を課す場合の試験期日は2月1日～3月25日

一般選抜に対する私学の受験指導力は言わずもがな、学校推薦型選抜と総合型選抜における私学の生徒管理能力（6年間という期間を通じ、生徒の学習履歴を多面的多層的にポートフォリオ化する能力＝出願する学校の特徴にあわせて、各生徒の学習履歴を最適に組み換え・組み合わせるプレゼンする能力）を考えると、新入試に対する私学の強みが一層際立ちます。

3　今春の中学入試からわかる入試問題の全体傾向

まずは四科目の全体傾向です。生徒一人ひとりの志望校の動向については、季節ごとの面談でお話しています。

国語

今年も、子ども達自身が視野を広げて、答えの根拠を見出すことが要求される問題が目立った。複数の文章が関連づけられたり長文が出題されたりし、子ども達はテスト全体にどのように取り組むのか、その方針も問われた。

文章では、新型コロナウイルスに関連した説明的文章が出題された。また、東日本大震災を背景とした物語も定着してきた。過去の延長線上に未来がないことを私たちに突きつけたこれらの災禍を通し、「価値観の転換」「コミュニケーションの変容」「不安定の中でのあり方」といったテーマが多く取り上げられた。また、物語では、主人公の抱える問題が晴れやかに解決されるものより、**他者との対話や触れ合いを通して、「思いこみ」から脱し、新たな課題と向き合う登場人物たちが、この先も葛藤、思慮し続けていくであろう姿を想像させるようなもの**が目立った。

設問では、文章には書かれていない具体例が提示され、筆者の主張と合うものを選んだり、文章内容に関連する身近な具体例を挙げて意見を記述したりするなど、文章を読解するだけでなく、把握した内容の再構築が必要となる問いが増加傾向にあった。付け焼き刃では対応できないこの種の問いの増加から、**子ども達が、何を、どのように学んできたか**という「学びの質」が、例年以上に問われていると考えることができる。

理科

理科の入試問題では、身のまわりで起こっているさまざまな現象について、さまざまな視点で情報を読み取り、筋

道立てて状況をとらえる力が試されている。題材としては、新型コロナウイルスに関連した時事的な問題や、台風や地震などの自然現象と防災に関する問題、SDGsを背景とした問題などが取り上げられていた。

日常生活という視点で見た場合、身のまわりで見られる現象が起こる仕組みを、身につけた知識や経験と結びつけて判断したり、提示された情報をもとに、状況を判断したりする力が問われている。また、地球規模の幅広い視点で見た場合、食物連鎖や環境問題、エネルギーなどを題材として、これまでに学んだことと組み合わせる筋道立てて状況をとらえ、課題を解決する力が問われている。

問題形式に目を向けた場合、全体的な傾向として、文書量が多く条件設定が多い問題が増えている。また、記述問題では、原因と結果の関係に目を向けて、実験結果からわかることを記述する問題や、さまざまな現象が起こるしくみを、知識や経験をもとに、問題の状況に対応させて記述する問題が多く出題された。さらに、計算問題では、複雑な計算処理を行う問題は減少の傾向にあるが、てこのつり合いやばねののびのように、一定の条件のもとで必ず成立することがらや関係をもとに計算を行う、あるいはそれらの融合された問題が、引き続き多く出題されている。

このように理科の入試問題では、**幅広い題材を、さまざまな視点で分析し、状況をとらえていく**ことが問われている。この際、**情報を読み取る力、情報どうしを結び付けて整理する力、原理原則をとらえる力**が、必要とされている。

算数

2021年度入試では情報量の増加、問題文の長文化の傾向が見られたが、2022年度入試ではその傾向はなりを潜め、標準的な情報量、文章量の問題が増えた。問題文も文意がとらえにくいものが少なく、総じて受験生の力が発揮しやすい傾向にあった。一方で、**受験生が触れてきた典型的な問題がそのまま出るということはそれほど多くなく、その多くは少しずつ「ひねり」が加わって**出題されていた。これまでに触れてきたものとの共通点・相違点を意識して取り組むことが求められている。典型的とされる問題の解法を再現できるというだけでは不十分で、その問題の構造を理解しているかどうかや、解法のプロセスの意味を理解しているかどうかといった点がより一層重要になったといえるだろう。

目立ったトピックとしては、「対話形式の問題の増加」や「日常生活で見られるものを題材とした問題の出題」、「統計分野の出題」がある。**大学入学共通テストの影響がうかがえる、対話形式の問題は増加傾向**にある。対話の状況においても、先生と生徒、子ども同士といった、様々なバリエーションが見られた。また、コロナ禍ならではの話題（例えば「席を一つ離す座り方の場合の数」など）や、SDGsを背景とした問題の出題も見られた。算数が日常生活とどのようにつながっているのかに目を向けてほしいという私学の先生方のメッセージといえるのかもしれない。統計分野に通じる資料の読み取りや、代表値の扱いの出題も見られた。これは学習指導要領の改訂により、本来は中学校内容であったものが小学校内容へと移ってきたものである。

社会

世の中のあらゆることがらが学ぶ対象となる社会科では、1つのことがらの原因や背景、結果や影響、他のことがらとのつながりを探りながら、そのことがらを多面的に理解し、そのことを通して、私たちが生きる社会全体について考えていく。

2021年も新型コロナウイルス感染症とともにあり続けた中で、非正規雇用や貧困といった経済格差、人種差別・ジェンダーギャップなど社会の多様性に対する感度などの問題が浮き彫りとなった。また、記録的な豪雨や土砂災害が発生したり、東日本大震災から10年目の節目にあたりたりしたことから、自然災害に改めて目が向けられた年でもあった。環境問題においては、カーボンニュートラルにいたる新エネルギー開発の遅れ、プラスチックごみや核廃棄物の処理など、課題は山積みのみまである。こうした状況をふまえた社会のあるべき姿が問われたことは、現実社会も中学入試問題も同様であったといえる。

近年の中学入試では網羅的な知識を求める問題は減り、**身についた知識・考え方と、資料（史料）から読み取れる情報を突き合わせて考える問題や、筋道立てた思考によって正誤を判断する問題**が増えている。また、**世の中の課題に対する自らの考えや行動を記述する問題**も目立った。教材の内容であれ、世の中の出来事であれ、**自ら情報を取りにいく**という**学びの姿勢が試されている**ように思われる。

4　2023年入試に向けた新たな私学の動き

東京女子学園：インターナショナルSが新校舎に同居し連携

→2023年、ローラスインターナショナルスクールオブサイエンスが新校舎に同居し、連携！

東京農大第二：中等部を開校し中高一貫校に

→2023年、東京農業大学第二高等学校（群馬県高崎市）に中等部が開校！

日本学園**：**明治大学の系列校となり共学化

→2026年、日本学園（東京・世田谷。男子校）が明治大学附属世田谷中学校・高等学校に！同時に中高とも共学化！

東京都市大学付属中**：**2023年より2月1日午前入試を実施。

→2023年、第1回を2月1日午前に！定員は約50名で実施！

聖セシリア女子**：**「英語表現入試」を新設

→B方式に「英語表現型入試」を新設。英語にジェスチャーやダンスを交えて自由に表現する身体表現と英語面接とで行われる。

玉川学園**：**IBクラスは英語必須の英算理社4科入試に

→IBクラス募集では、これまで国語か英語を選択しての4科目だったが、英語を必須として、英算理社4科入試に。

山脇学園**：**「英語アダプティブラーニング入試」新設

→「英語アダプティブラーニング入試」を2月1日午後に新設。

三輪田学園**：**英検利用入試を追加

→2月1日に英検利用（英検級+2科）入試を追加。

筑波大付属・筑波大駒場**：**報告書点に英語を追加

→筑波大学付属は報告書点に英語を加え報告書点を36点満点から42点満点に。筑波大学付属駒場も報告書に英語評定を記載することを公表

サレジアン国際学園（現星美学園）**：**来春から共学化・校名変更

→本科クラス、インターナショナルクラスの募集で、インターナショナルクラス Advanced Group の入試は英語・英語エッセイ（ともに面接あり）。CEFR B1以上の英語力をもっていると認められた場合、学力試験は免除。なお Standard Group は日程により、2科4科選択、または4科目から自由に2科目選択できる自由選択入試、本科はそのほか思考力問題の21世紀型入試もある。

日本大学**：**「中高一貫2-1-3システム」スタート

→新しい「中高一貫2-1-3システム」を適用。日本大学の付属であるメリットと、国公立大学や医学系への進路を実現する“ハイブリッド校”を標榜し、中2まではアカデミックフロンティアとグローバルリーダーズの2コース、中3は高校の特別進学コース、総合進学コース、スーパーグローバルクラスのプレコースの1年として、進路選択に柔軟に対応。

三田国際学園**：**MSTCがスタート！

→理科分野の意欲が旺盛な生徒が中2から、コース変更できる在籍するメディカルサイエンステクノロジークラス(MSTC)が始動。

昭和女子大学付属昭和**：**12/23にオンライン帰国生入試を新設。

→11月の帰国生入試とは別に、12/23にオンライン帰国生入試を新設。

開成**：**新校舎A棟が完成し、7/15に竣工式。

→創立150周年記念事業のひとつ新校舎A棟が完成し、7/15に竣工式を実施。

海城**：**新理科館が2021年秋に完成予定。

→理科4科の専門性と運動がコンセプトの新理科館が今秋完成予定。環境教育の役割も担う。

ドルトン東京学園**：**2022年9月の完成めざしSTEAM校舎建設中。

→2022年9月竣工をめざして建設中のSTEAM校舎は、既存校舎を含めたZEB（Net Zero Energy Building）スクールめざす建築。

早稲田**：**2023年7月完成予定の体育館と新3号館を建築中。

→早稲田の125周年記念事業として建て替えが進む新興風館（体育館）と新3号館（2023年7月完成予定）に期待。

鎌倉女子大学中**：**中等部・高等部の新校舎が完成。

→キャンパス再整備計画にあたり「人・時・みどりを大切に」をテーマにした中等部・高等部の新校舎が完成。ラーニングコモンズ（学生の学習支援を意図して図書館に設けられた場所）や相談ラウンジなど生徒に居心地の良い空間が整う。

東京女子学園**：**地上12階の高層校舎への建て替えが進む。

→2023年4月完成予定の地上12階の高層校舎への建て替えが進む。

⑤ 改めて生徒・保護者様へのお願いと塾からの約束

　またまた引用になりますが、昨年の冬の**だ**よりで、私はこう記載しています。「ではなぜ、私学と公立でここまで差がついてしまったのか？あたりまえですが、教師はどのような状況下であれ、目の前にいる、保護者様よりお預かりする子供たちが学び続けるにはどうすればいいかを必死に考え、模索し、戦い続けねばなりません。**私学の先生方は主体的に自らが動き、それに応じて各私学で「予算」も柔軟に動かした一方で、仕事（公務）としてどこかでやらされている感のある公立は、やる気のある個々の先生がおられても大勢は動かしがたく、そもそも公立にはこのような危機の際の臨時予算も用意していなかったということがあるのかもしれない**。疫病・地震・戦争・大不況……。人類史の中で稀に起こる、個人の力ではどうしようもない大きな事態の一つに、今年の受験生は直面することになりました。しかし人類はこのような危機を乗り越え（乗り越えられなかった者は死に絶え）、70億もの人間が地球を覆いつくす現在の繁栄を謳歌するに至っています。やは

り危機はチャンスでしかないのです。小中高の学校教科書の大改訂、そして大学入試改革もすべてチャンスです。我々とともに、どこまでも前向きに今を生きましょう！」と。その思いは今も変わっていませんし、一向に収まらないコロナ禍と為政者の無策と体たらくを見るにつけ、むしろ一層その思いを強くします。東京・神奈川の児童数は減りません。両県ともに転入が多く、転出が少ない、あるいは両県を行き来するという相互互換性があるため、今後児童数が一層増えることはあっても極端に減ることはありません。すなわち来年も再来年も中学入試が激戦になることは必至です。

　創研学院高津駅前校の中学受験コースは、引き続き私がいる限り、**ベテラン正社員が入塾から合格まで一貫して指導する、一学年15名定員の少人数クラス授業を実践し続けていきたい**と思います。お預かりする一人ひとりの子供たちの人生に、責任をもって関与し、全力をそそいでいきたいからです。高津駅前校を今後ともよろしくお願いします。

⑥ おまけー考えるヒントと道具の紹介

　表現力・思考力・創造力……。これからの教育はこういった力が大事だとは世間（文部科学省）は言うけれど、それなりにわが子は対象に真剣に向き合って頭は動かしているようだけれど、わが子の頭の中で何かが動いている・動き出す気配ははっきりとわからないし、一体全体どうしたらよいかわからない、というのが、学習塾に通われたことのない保護者様のお悩みではないでしょうか？

　どこかの誰かがすでに考えたことを覚えて、それをあたかも自分が考えたかのように言葉を少しだけ変えて言えばよくできる子だね！と評価された以前の教育とはちがひ、「一から、あるいはゼロから物事を考えよう」って何のことかさっぱりわからない、そんなこと今までしたことがない、というのが多くの方の本音ではないでしょうか？

　既知の知識をとにかく一つでも人より多くおぼえたものが勝ちのかつての入試制度で、大学へ、社会へと巣立った大人が構成する現在の日本社会が、超少子高齢社会・長引くコロナ禍・ロシアによるウクライナ侵攻に端を発する食料危機や物価高騰そして新冷戦といった立て続けに降りかかる未知の状況（グローバル＝包括的理解のいる混沌とした世界情勢）に右往左往し、局面ごとの最適解を導き出せず、いたずらに時間（国民の命）とお金（国民の税金）を空費するのは、当然の帰結とってよく、私も含めた大人（政治家や彼らを送り出した有権者と教育制度）の責任というしかありません。そうした愚痴はさておき、思考法には大きくわけて、**帰納法**（的思考）と**演繹法**（的思考）があり、小中学生はこの2パターンが使いこなせるようになれば十分だと私は考えます。

　まず**帰納法（inductive-method）**とは、一見ばらばらに見える多くの個別的な事象から、共通する情報や法則性を見つけ、取り出し、それらの共通部分を統合させて、結論を導き出すことです。たとえば、ソクラテスは死んだ。プラトンは死んだ。アリストテレスは死んだ。ここから共通するのは、三人は「人」であり、「死」んだことです。つまりは「人は死ぬ」という結論を導き出せます。ところで、この具体から抽象へむかっていく作業はある面で「算数的」であるとも言えます。なぜなら算数とは、算も数も訓読みでは「かぞえる」という同じ意味を重ねた熟語であり、日常生活や我々の身の回りの具体的なものについて考える勉強だからです。

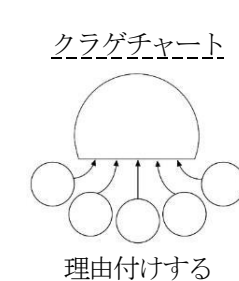
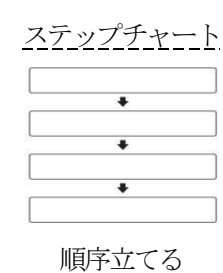
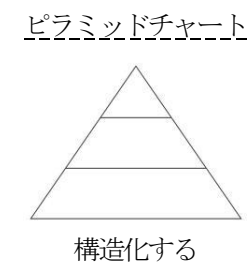
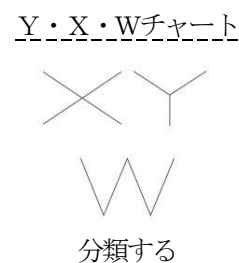
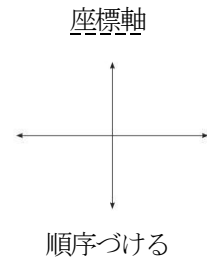
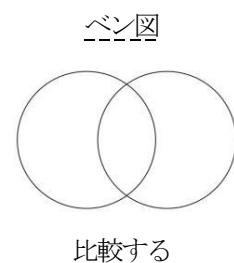
　次に**演繹法（deduction-method）**とは、数少ない個別的な事象しかなくとも、すでに知っている理論・法則・前提あるいは経験から、具体的・個別的なレベルへと推論を重ね、時に拡張させて、最終的に結論を導き出すことです。上記の帰納法の説明にくらべわかりにくい方には、物証がほとんど残されていない事件現場で、警部杉下右京が現場に残されたほんのささいな痕跡から真犯人をあざやかに見つけ出す推理の過程をイメージしていただければわかりやすいでしょうか。あるいは小学生にもわかりやすく卑近な例をあげれば、ローつ聞いたことがないクラスのマドンナ花子ちゃんがはたしておならをするのか？まったくわからない。でも、自分の父もおならをする。母もたまにする。妹もああ見えてする。弟はもちろんブーブーする。そうか男も女も子供も大人もみなおならをする。ということは、あこがれのハナコちゃんだってオナラをするんだ、とでも申せばよろしいでしょうか？この抽象から具体へむかっていく作業はある面で「数学的」であるとも言えます。数学とは、数を学ぶ（研究する）ことを主眼としており、負の数や平方根（虚数）に代表されるように、抽象度の高いものを扱い、なぜそうなるのか思考を突き詰めて具体化していく学問だからです。

　この算数のもつ実学的要素、数学のもつ虚学的要素、この二つの同時理解こそが、神学（キリスト教やイスラム教）という究極の虚（大うそ）から発生し、枝分かれしていった西洋のありとあらゆる学問と、それらを幼少期から学んで大人になる西洋人の思考の理解には欠かせないとも言えます。そうでないと、左手でウクライナ人へ殺戮指令を出し、右手で非業の死を遂げた元総理に弔電で深い哀悼の意を示す、ロシア大統領の思考など理解できないでしょう。

　そしてなんとこの高津駅前校には、中学受験算数と高校受験数学の両方を、わかりやすく、楽しく、どんな子にも説得力を持って教えることができる、受験数理指導の重鎮、稗田がいるのです。

　演繹法と帰納法。

　なかなか急には身につかないという方には、もっともっと具体的な思考ツールを紹介したいと思います。お時間があれば、もう少しだけお付き合いください。



以上、おまけといいながら、長々と述べてきましたが、こういうお話も実は、保護者様自身が高校や大学で一般教養科目で学ばれた経験や記憶をおもちのはずです。しかしながらいつの間にか、受験勉強には、就職活動には、実社会を生きていく上では直接関係ない（すぐに効果が見こめない）といった功利的な理由で退けられてきたのではないのでしょうか？私が本当に言いたいのは、目先の結果にしか目がいかない（過度に失敗をおそれチャレンジしない、深く考えることなど到底できない）小賢しい子供は育てたくないということです。一つ一つの知識に対して正しい理解をもちながら、広く深い場所までおそれもせず大胆に伸びていく思考のできる子供を育てたい。私の思いはこれにつきます。ですから、これからも教科書をそのまま教えるのではなく、教科書（日能・SAPIX・四谷など、この世に存在するあらゆる教材となるべき新鮮な素材）を使って、知ること・考えることの楽しさを子供たちに堪能してもらい、より大きな結果（合格だけでなく、生涯学び続ける意欲と思考法）が、お子様の現在と未来にもたらされる授業を実践していきたいと思えます。改めて皆様よろしくお願ひします。

Will is everything!（情熱こそ!）

文責 創研学院高津駅前校 校長 福阪和重

【 ベン図 】

二つの事実、考え、意見などについて、共通点と相違点の両方を書き出し、情報を整理して比較します。二つの円が重なる部分に共通点を書きます。何かを比べるときは、どちらかと言えば相違点に目が行きがちですが、ベン図を活用すると、共通点と相違点の両方が意識されます。両方を明らかにしたうえで物事を判断し、自分の考えをまとめます。

【 座標軸 】

ベン図は二つの対象物を単純に比較するときに使いますが、もう少し深く思考したいときには座標軸が便利です。座標軸は物事を2つの軸で整理するときを使い、比較するだけでなく、順序をつけたいときの思考を助けてくれます。

【 Y・X・Wチャート 】

物事を多方面に見たり、分類したりするときに役立つツールです。何か物事について考えるとき、いくつかの視点を持って情報を整理すると考えやすくなります。Yチャートは3つ、Xチャートは4つ、Wチャートは5つの視点から物事を考えていきます。視点を多く持つほど、いろいろな面が見えてきます。

【 ピラミッドチャート 】

自分の考えを具体化したり、構造化するとき役に立ちます。ピラミッドの頂点を主張とし、上から下に向かって情報を整理していきます。真ん中に主張を支える理由を、一番下に理由を裏付ける根拠、すなわち事実やデータ、経験などを書きこみます。こうして自分の考えを具体化・構造化しておくと、説得力のある主張ができます。

【 ステップチャート 】

思考を組み立てたり、話をまとめたり、要約したりするときに役に立ちます。矢印は時系列だけでなく、重要度などへの対応も可能です。

【 クラゲチャート 】

問題事象の原因や要因を探るときに使う理由づけのためのツール。クラゲの頭の部分に自分の考え、答え、出来事や問題となる事象を記入し、それらに対する根拠や原因などを足の円に書いて「理由」を明らかにします。

2022年（高校受験コース版・夏だより） ～ 神奈川県高校入試問題分析と対策一序 ～

まずは全国の動向を見てみましょう。近年の神奈川は非常に敏感な県で、国の大学入試改革にあわせるように入試問題を改変しています。もちろん他の都道府県の動向にも気を配りながら、入試問題を作成しています。それだけに前年の全国傾向を知っておくことが、今年度の出題傾向を知る上で極めて重要になります。

2022年度公立高校入試「全国傾向」

数学

今年の入試の特徴

注目の「四分位範囲と箱ひげ図」は22道県で出題。初年度から記述を課す県も。問題は“解く”だけでなく“読み取る”“活用する”が重視されるように。おそらくは神奈川で来年出題されるでしょう。

問題構成の変化

新傾向（会話形式・日常生活を題材等）の導入は県によって大きく異なる。全体的な難易度は特に大きく変化していない。

その他注目したい点

「四分位範囲と箱ひげ図」は代表値とからめた出題が多いため、特に未出の県では対策が必須。関数は長文化と図形との融合に要注意。確率では“考え方の説明（表現力）”が増えてきている。

英語

今年の入試の特徴

新出内容「仮定法」「現在完了進行形」「原形不定詞」は8割以上の都道府県で出題。大半は文中での使用となったが、語順整序や空所補充での出題も見られる。

問題構成の変化

問題構成そのものに変化は見られないが、英文中の単語は難化している。吹き出しなどを用いた対話形式も増えている。

その他注目したい点

昨年出題しすぎた反響か、環境に関する英文は大幅に減り、技術革新やオンラインの活用に関する英文が目立った（ということはその反動でまた環境問題が出る可能性がある）。英作文のテーマも、教科書で扱われるような無難なものが多かった。

国語

今年の入試の特徴

共通テストの影響もあり、複数テキストの採用は増加傾向。作文は“言葉”や“コミュニケーション”に関する内容が多かった。

問題構成の変化

問題構成は各都道府県ではほぼ固定化。難易度にも大きな変化は見られない。

その他注目したい点

説明文の題材は哲学・思考・言語・生物学が目立つ。全体の内容把握に重点が置かれ、設問はメモやノート形式、会話の空所補充が主流に。

理科

今年の入試の特徴

中3新出内容の「ダニエル電池」は15都府県で出題。共通テストの影響か、“完答で正解”や“組み合わせの選択肢”の問題が10問を超える県も続出。

問題構成の変化

会話やメモがなく設問もほぼ一問一答の従来型の入試と、積極的に新傾向を採用している入試があり、県ごとの特徴が顕著になってきている。

その他注目したい点

記号問題中心の県では選択肢の数で難化を図るケースが多く、6択や8択問題も増えている。問題の見せ方にこだわる入試もあるが、出題内容は正確な知識の定着を問うものが大半を占める。

社会

今年の入試の特徴

コロナ禍による出題範囲の短縮という特別措置により、昨年出題が見送られた「国際社会の諸問題」が多くの県で出題。大注目のSDGs関連の問題は、今年も「二酸化炭素排出量制限」に関する記述問題が目立った。

問題構成の変化

問題構成に大きな変化は見られないが、歴史の近現代史と公民の比重が高まっている。

その他注目したい点

県によって大きく異なるのが資料の使い方。資料が解答のヒントになる場合と、資料についての知識を問う場合があり、特に後者は難度が高めである。県ごとの特徴を踏まえた対策が必要に。

さあ、次はいよいよ我が神奈川県です。必ず全国傾向に目を通してからお読みください。また最新の過去問題を一通り解いた後で読むと、よりすんなりと腑に落ちると思います。

2022年度公立高校入試「神奈川県」

数学

今年の入試の特徴

数値記述問題が数値マーク問題に変更。「箱ひげ図」は出題されず（ということは、今年でる?）。

難易度（昨年と比較して）

元々易しい問題と難しい問題の二極化の傾向にあったが、その差がますます拡大。全体としてはやや難化。

その他注目したい点

証明は神奈川県の定番の相似（中3内容）ではなく合同（中2内容）を出題。空所補充形式は例年通りだが、証明の文章量が多く、精読ができない受験生にとってはかなり苦しい問題だった。四分位数は出題されなかったが、資料の読み取りの問題が出題され、今後やはりデータ・資料系の問題が増えてくることが予見される。また今年の共通テスト数学の難化を受け、神奈川県教育委員会がこの傾向にあわせてくる可能性は大きい。データサイエンスの流行を背景に、ヒストグラムや箱ひげ図が出題される可能性は極めて高い。

英語

今年の入試の特徴

英単語記述もなくなり、記述は空所補充1問のみ。中3新出内容はすべて出題される。正答率は22%程度であったが、初の仮定法が登場。現在完了進行形やhelpを使った原形不定詞などが今後出る可能性が高い。

難易度（昨年と比較して）

全体的には特に大きな変化なし。しかしながら、頻出するとわかっている、後置修飾や間接疑問の得点率が低い。また、初登場の仮定法 I wish I were better at playing it. の英文を見てもわかるように、仮定法だけでなく、比較や動名詞の理解がないと難しい、難易度の高い英文法のミックス問題を出すのも神奈川。

その他注目したい点

読解のテーマは商店街のゴミ問題とオンラインイベントで例年よりは読みやすい内容。数値（割合）にからむ問題は定番。数学同様、共通テストと同じコンセプトで作られていると考えてよい。

国語

今年の入試の特徴

記述は最後の空所補充のみ。大問構成が変更になり、古典が問四に移った。

難易度（昨年と比較して）

特に大きな変化なし。ただし、抽象度の高い哲学的な文章が頻出するので、事前に読みこんでいないと、思いのほか論説文で時間が取られてしまう。

その他注目したい点

漢字の読みも選択肢に。最終問題はリサイクルがテーマ。内容は例年通りだが、字数は30字に減り、記述を極力避けたつくりになった。ただし記述復活の傾向は他府県で見られるので、そのまま続くとは限らずない。

理科

今年の入試の特徴

新出の「ダニエル電池」が出題。化学以外は知識ではなく考え方や過程を問う出題がメインに。原理・原則を問う問題なので、指導する側も1対1対応の知識を暗記をさせるような塾では歯が立たない。全体を頭の中で整理させ（正しく配置させていないと、まったく歯が立たない）。

難易度（昨年と比較して）

それでも全体的に易化。平均点は大きく上がった。

その他注目したい点

知識の定着ではなく理解を重視した入試に。難度はそこまで高くないが、選択肢も含め読解量が多く、処理力が問われる。中学校の定期テストとは出題表現がまったく異なるので注意。

社会

今年の入試の特徴

6択以上の選択肢は1問→12問。用語も含め記述の問題はなし。

難易度（昨年と比較して）

選択肢増などの影響から大幅に難化。

その他注目したい点

細かい知識を問う内容は少なく、難度は高くはないが、数値がからむ読み取りがハードルに。

2013～2022年の各科目平均点の推移「神奈川県」

	国語	社会	数学	理科	英語	計
2013	67.8	51.1	65.5	66.4	54.8	305.6
2014	60.8	49.5	51.7	38.6	59.6	260.2
2015	64.4	50.2	52.6	37.4	51.8	256.4
2016	64.7	52.0	51.7	46.5	43.0	257.9
2017	73.1	54.5	63.5	46.9	51.9	289.9
2018	65.6	41.8	56.0	45.3	56.1	264.8
2019	59.1	42.5	50.3	61.3	49.8	263.0
2020	69.1	58.2	55.7	55.9	49.4	288.3
2021	65.7	72.6	58.2	50.1	54.6	301.2
2022	61.3	62.4	52.9	58.9	52.1	287.6

神奈川県立高校入試 傾向と対策【数学】「選択肢に頼らず解く」ことが重要！

Stage1 問1・2と問3以降の(ア)で確実に得点できるよう、正答率60%を超える問題を重点的に対策(他県の一行問題で対策する場合は正答率70%以上が目安)！過去問演習では、記号ではなく数値で答えを出すことを心がける。

Stage2 頻出で典型題が出題される「関数」「確率」対策で得点力アップを心がけよう！しかし中学校の定期テストレベルでは役に立たないので、しっかりした入試対策問題での演習が必要。

Stage3 「関数と図形の融合問題」や「平面・空間図形」は、高難度の演習・解説をくり返し、考え方・解き方のコツを身につけることが重要！

神奈川県立高校入試 傾向と対策【英語】「語彙力」「文法力」を身につけ、さまざまな英文を読みこなす！

Stage1 基本文法&英単語の習得に力を入れ、リスニングや空所補充の文法問題、対話文などの比較的対策しやすい問題で確実に得点する！

Stage2 定型表現が出題される「英作文」、得点力アップにつながる「語順整序」の対策に力を入れる！文法や熟語は全国的に見てもかなりレベルが高いので、語彙力アップも重要！

Stage3 全国屈指の分量と難度を誇る英文読解対策を徹底的に！グラフの読み取りや、時事的・専門的なテーマの文章に多く降れることが重要！福阪の英検対策への参加が、結局、神奈川の英語を制することにつながる。

神奈川県立高校入試 傾向と対策【国語】「長文を読みこなす」「読解力」をつける！

現代文…選択肢が長文のため、素早く正確に読み取る力が不可欠！選択肢の吟味を徹底する！

言語事項 高難度の漢字の“読み”は、問題集等で中学生に馴染みのない漢字に多く触れることが重要！

古文 記号問題のみで易しいが、選択肢が長文なので時間をかけすぎないように注意する必要あり！

作文 「複数の資料から読み取ったことを文字にする」という形式のため、資料の要点をまとめる練習が必要！

神奈川県立高校入試 傾向と対策【理科】「正確な知識の理解と活用が求められる入試！」

Stage1 正確な知識と理解を求められる問題が出題されるため、基礎知識重視の学習で知識の定着を図ることが最重要課題！ただし定期テストのよう典型問題ではないので、入試対策用の問題を使用した中1・2の復習が必須！

Stage2 設問のおよそ半数が“正しい組み合わせを選ぶ”か“完答で正解”の問題。模試や予想問題を積極的に対策に取り入れ、知識を活用できるようにする。選択肢の増加を視野に入れた対策も！

Stage3 上位生は低正答率になりがちな計算問題対策を強化！物理・化学だけでなく、難化が進む地学も重点的に取り組んでおきたい。

神奈川県立高校入試 傾向と対策【社会】「知識と資料の関連づけ」が得点のカギを握る！

Stage1 記号問題が大半を占めるが、その多くが“正しい組み合わせを選ぶ”問題のため、知識の習得は最重要課題！

1つの選択肢で複数の知識を問うこともあるため、関連事項も合わせた理解が必要！

Stage2 「資料の読み取り」は数値が絡む問題が多いので、過去問題で問題に慣れておくことが重要！ページ数が多いので、時間配分にも要注意！

Stage3 上位生は満点近い得点が必要！この2年、平均点が60点を超えているため、凝った選択肢や“完答で正解”の問題にも対応できるようにしておきたい！

特色検査 ◎は大問のメインとなっている教科 ○は設問として出題された教科

2020年度	数	英	国	理	社	その他
問1	○	◎				
問2	○		◎			
問3	○				○	美術
問4	◎		◎			
問5	◎		◎		◎	
問6	◎					
問7	○				◎	

2021年度	数	英	国	理	社	その他
問1		◎				
問2	○		◎	○		
問3	○		○	◎		体育
問4	◎		◎		○	
問5	◎					
問6	◎			◎	○	
問7	◎			○	◎	

2022年度	数	英	国	理	社	その他
問1		◎				
問2	○		◎	○	○	
問3	○	○	○	○	○	家庭
問4	◎		○			
問5	◎					
問6	◎					
問7	○			◎	○	

問1 共通 問2 共通

問3 横浜平沼・光陵・横浜緑ヶ丘・湘南・茅ヶ崎北稜・大和

問4 川和・希望ヶ丘・横浜平沼・柏陽・多摩・平塚江南・小田原・大和・相模原

問5 横浜緑ヶ丘・横須賀・湘南

問6 横浜翠嵐・川和・希望ヶ丘・柏陽・多摩・横須賀・鎌倉・茅ヶ崎北稜・平塚江南・小田原・厚木・相模原

問7 横浜翠嵐・光陵・鎌倉・厚木

神奈川県立高校入試 傾向と対策【特色検査】教科の知識と同様に“読解力”が問われる！

Point1 英語の力が問われるのは、ほぼ問1のみ！ただし、扱われるテーマは専門的で難度も高いため、日ごろから難度の高い英文に触れて、内容把握に慣れておく必要あり！

Point2 読解できないと解けない問題が半数を占めるため、対策は「読解+知識の活用」を重点的に！

Point3 学校によって求める力の方向性に個性あり！ 問6・7パターン→総合力と活用力重視傾向

問4・6パターン→数学重視傾向など、志望校を意識した対策が必須！

最後に現在進行中の神奈川県立高校の学校改革について簡単にまとめます。

改革の柱1 質の高い教育の充実…すべての生徒に自立する力・社会を生き抜く力を育成します。(学力テストの実施・生徒海外留学支援の実施など)・生徒の個性や優れた能力を伸ばす教育に取り組みます。(学力向上進学重点校の指定など)・共生社会づくりに向けたインクルーシブ教育を推進します。(知的障がいや発達障がい等のある生徒の受け入れ)

改革の柱2 学校経営力の向上…学校の教育目標の着実な達成をめざす学校経営に取り組みます。(県立高校の情報発信など)・地域の新たなコミュニティの核となる学校づくりを進めます。(神奈川らしいコミュニティ・スクールの導入)・生徒が安全・安心で快適に学べる教育環境の提供に取り組みます。(耐震化・老朽化対策の推進・トイレ環境の改善など)

改革の柱3 再編・統合等の取り組み…少子化社会における適正な規模等に基づく県立高校の再編・統合に取り組みます。(学校規模の適正化、専門学科の新設、10組18校1分校の再編・統合、中学までに持てる力を十分に発揮しきれなかった生徒を積極的に受け入れるクリエイティブスクールの増設など)

昨年とはほぼ同じ文を以下に掲載し、まとめとします。

常々話していることですが、受験で一生のすべてが決まるわけではありません。しかし、その後の人生の大きな流れはできると思います。もちろん私は勉強だけでできてよしなどとは思っていません。

偏差値や模試の結果で学校を決めるのではなく、まず学校にお子様自ら足を運んでほしいと思います。とりわけ公立高校は、なかなか学校見学の機会がありません。受験生のみ、かつ人数限定ということもあります。先んずれば人を制すと言います。お子様の学習意欲を芽生えさせ、意識を高く保つためにも、到達すべきゴールの姿は早く見させる、可視化・具体化させるべきです。学校と塾と自宅の往復の毎日。日常に埋没してしまつては、ただただ時間だけが流れ、あっという間にその日が来てしまいます。

そして主体的に効率的に学習・行動できる学生になるために、創研学院に一日も早く通塾していただきたいと思います。とことん本気で、一切の妥協を許さず、お子様の指導にあたってまいります。今後ともよろしく願いいたします。

Will is everything! (情熱こそ!) 文責 創研学院高津駅前校 校長 福阪和重

指定		地域				
		横浜北東・川崎	横浜南西	横須賀三浦・湘南	中・県西	県央・相模原
教育課程 研究開発校	新科目「公共」	城郷・新城	瀬谷西	深沢	小田原東	上溝
	新たな学習評価	鶴見	光陵	茅ヶ崎北稜	大磯	海老名
	総合的な 探求の時間	市ヶ尾 川崎	舞岡 横浜青陵	横須賀南 藤沢西	秦野総合 山北	有馬 大和
授業力向上推進重点校		港北	松陽	七里が浜・藤沢清流	伊勢原	麻溝台
ICT利活用授業研究推進校		生田	横浜旭陵	横須賀大津	秦野	上鶴間・城山
プログラミング教育研究推進校		住吉	横浜栄	茅ヶ崎西浜	西湘	相模原総合
確かな学力育成推進校		菅	永谷	寒川	平塚湘風	津久井
学力向上進学重点校		横浜翠嵐・川和	柏陽	湘南		厚木
学力向上進学重点校 (エントリー校)		多摩	希望ヶ丘 横浜平沼 光陵 横浜緑ヶ丘 横浜国際	横須賀 鎌倉 茅ヶ崎北稜	平塚江南 小田原	大和 相模原
理数教育推進校		多摩	横浜緑ヶ丘	鎌倉	平塚江南・小田原	相模原
グローバル教育研究推進校		神奈川総合・川和	横浜平沼	鶴嶺	伊志田	大和西
国際バカロレア認定校			横浜国際			
インクルーシブ教育実践推進校		城郷 霧が丘 川崎北	上矢部	津久井浜 湘南台 茅ヶ崎	二宮 伊勢原 足柄	厚木西 綾瀬 上鶴間・橋本
通級指導導入校		生田東	横浜修悠館・保土ヶ谷			綾瀬西

2023年（高校受験コース版・初夏日より） ～ 神奈川県高校入試問題分析と対策一序 ～

今年の神奈川県高校入試を振り返る前に、まずは創研学院高津駅前校の校舎単独合格実績を改めてお知らせします。

☆ 中学受験コース6年生 男女15名☆

世田谷学園2・法政二1・青稜2・都市大等々力特選3・栄東2・田園調布学園3・日本女子1・昭和女子2・実践女子3・日大（グローバルリーダーズ）1・カリタス2・日大豊山1

☆ 高校受験コース3年生 男女24名☆

川和3・都立国際1・多摩1・新城2・横浜平沼1・市ヶ尾1・生田1・法政国際1・法政二高3・中大横浜2
日大日吉SG1・東農大2・桐蔭学園（プログレス2・アドバンス2）・青稜1・都市大等々力1・目黒日大1

2023年度公立高校入試「神奈川県」問題分析 5科（50分・各100点）

英語

- リスニング問題：小問数7
例年通りの3部構成です。対話文の聞き取り、スピーチの聞き取りが出されました。すべて選択式です。
- 語彙：小問数3
英文の空所に入る適切な英単語を選択する問題です。例年対話文の形式でしたが、2023年は設問ごとに独立した英文でした。
- 適語句選択：小問数4
短い対話文中の空所に適切な英語を選んで補う問題です。ほとんどが基本的な英文法知識を問うものですが、動詞の時制について正確に理解していないと間違えやすいものもあり、注意が必要です。
- 並べかえ英作文：小問数4
対話文に合わせて、不要な1語を使わずに与えられた語を並べかえる問題です。（ウ）は、ある単語の使い方に戸惑った受験生もいたと思います。
- 条件英作文：小問数1
時系列に並んだA～Cの絵を説明する英文中の空所に、適する英語を書く問題です。細かい条件が与えられているため、注意が必要です。
- 説明文の読解（約620語）：小問数3
実社会で利用されている人工知能に関して、ある高校生が行った英語のスピーチです。（ア）は本文の理解とグラフの読み取りの両方を求められました。
- 対話文の読解（約650語）：小問数2
短い対話とそれに関連した図表の読み取り、空所に入るものを選ぶ方式です。対話文の中から必要な情報を見つけ、図表と照らし合わせるため、読解だけではなく情報処理能力も重要です。
- 対話文の読解（約710語）：小問数3
日本におけるお米の消費量に関する生徒たちの対話文です。（イ）は空所を含めた1文でどのような意味になるかを考える必要があり、注意が必要でした。

数学

- 計算問題
例年通り選択式で、正負の数、文字式、平方根の基本的な計算問題でした。時間をかけずに解き進めたい大問です。
- 小問集合
因数分解、二次方程式、二次関数の変化の割合、文章題、整数の5問でした。いずれも基本問題です。ミスなく得点を重ねたい大問でした。
- 小問集合
（ア）円と相似、（イ）データの活用、（ウ）速さの文章題、（エ）平面図形の問題でした。3年ぶりに円と相似の証明問題が出されました。どの問題も条件が多く、焦らず丁寧に処理していくことが大切でした。
- 二次関数
例年通り、放物線と直線についての問題でした。（ア）（イ）は基本問題です。（ウ）は計算量が多く、解ききれた受験生は多くなかったと思われます。
- 確率

さいころの出た目に従ってブロックを動かす問題でした。例年同様ルールの把握と丁寧に数え上げる力が求められました。

6 空間図形

円すいについての問題でした。（イ）は空間上の線分の長さを求める問題で、類題を解いたことがあれば取り組みやすかったことでしょう。（ウ）は表面上の最短距離の問題で、5年連続で扱われているテーマです。解法に悩むことはなかったと思われませんが、慣れない角度に戸惑った受験生がいたかもしれません。

国語

- 漢字・俳句の鑑賞
漢字の読み取り問題は、2022年と同様にすべて記号選択で出されました。まぎらわしい選択肢がいくつかあるため注意が必要でした。俳句の鑑賞では表現されている内容を丁寧に読み取る力が求められました。
- 瀧羽麻子『博士の長靴』
家庭教師をしている主人公とその生徒の家族との交流を描いた小説文からの出題です。過去に時代設定の古い文章が出題されたこともありましたが、2022年に引き続き2023年も時代設定は現代で、読みづらさを感じた受験生は少なかったと思われます。設問の多くは解答の根拠が明確で、登場人物の心情の動きに注意して丁寧に読み進めることができれば対処可能なものでした。
- ハナムラチカヒロ『まなごしの革命』
物事の見方が固定化し常識へと移りゆくことについて述べた文章です。難解な表現が少なく内容を理解しやすかったと思われます。設問は読解を要するものばかりではなく、2022年と同様に熟語の構成や文法の問題など様々な国語の知識が必要とされました。いずれも標準的な難度なので、確実に点数につなげておきたいところです。
- 『平家物語』
鎌倉時代に成立した軍記物語からの出題でした。例年と変わらず設問数が4問と少ないものの、内容を正確に読み取れなければ、対応が難しい問題も含まれています。
- グラフ・資料と対話文の読み取り
人間と自然の関係について、資料・グラフ・対話文のなかから、情報を読み取り設問に答えるという内容です。記述では複数の条件を満たした解答を短時間でまとめる力が求められました。

理科

- 小問集合（物理）
（ア）音、（イ）電流、（ウ）力に関する問題でした。（ウ）は磁力を含む力の働き方の理解が必要でした。
- 小問集合（化学）
（ア）気体、（イ）溶解度、（ウ）中和に関する問題でした。問題文を読み飛ばさず、注意深く解き進めることが大切でした。
- 小問集合（生物）
（ア）顕微鏡、（イ）人体、（ウ）遺伝に関する問題でした。いずれも典型的な基礎問題でした。
- 小問集合（地学）
（ア）地震、（イ）湿度、（ウ）太陽に関する問題でした。（イ）は飽和水蒸気量と湿度について効率よく情報整理する力が求められました。
- 電流、運動エネルギー（物理）
電流と磁界による力を受け取る物体の運動に関する問題でした。（ウ）（エ）では力と運動の関係やエネルギー変換のしくみを、十分に理解しているかどうかが問われました。
- 化学変化（化学）
酸化と還元に関する問題でした。（エ）は2022年度同様、化学式の係数の問題でした。類題を十分に演習したことがあれば、解き進めやすかったことでしょう。
- 植物（生物）
植物のはたらきに関する問題でした。例年生物の対照実験が出題される傾向にあり、2023年も論理的な実験の組み立てと結果の分析が必要でした。
- 地質（地学）
地層の成り立ちに関する問題でした。典型的な問題ですが、選択肢の中にはやや細かな部分まで確認すべきものがあり、高得点を狙うためにはしくみの十分な理解が必要でした。

社会

1 世界地理

正距方位図法の地図を用いた出題でした。農業、民族、言語などに関する問題は基本的なものでした。

2 地理

日本の都市に関する 5 つの資料を用いた出題でした。気候に関する問題は、それぞれの気候の特徴をグラフだけでなく、言語的にも理解しておく必要がありました。

3 日本史

土地に関する日本史年表を題材としたものでした。年表には年代が示されていないため、年表に記された出来事から判断するためには、それが起きた時期と内容の双方を把握している必要がありました。

4 日本史

日本の近現代の外交に関する問題が中心でした。外交や内政に関する資料問題は、冷静に読み解き考察することで解答が可能なものでした。

5 経済

2つの時期の社会情勢についてまとめた資料からの出題でした。社会保障の資料を用いた問題は3つの事項についてそれぞれ正誤を判断するもので、慎重な対応が求められました。

6 総合

公民分野を中心としながらも、そこに関連する歴史分野からの出題もみられました。環境に関する問題は、地球温暖化防止の歴史を理解している必要がありました。

7 総合

ある県に関するレポートを題材とした地理・歴史・公民の総合問題でした。日本を取り巻く国際環境に関する問題では、知識をもとに資料を分析する力が問われました。

特色検査

自己表現検査 60分

神奈川県は 2019 年から上位校の特色検査（自己表現検査）の出題方法を、それまで学校がそれぞれ作成していた自校作成形式から変更しました。2023 年は学力向上進学重点校 5 校（横浜翠嵐、湘南、柏陽、厚木、川和）と学力向上進学重点校エントリー校 13 校（横浜平沼、横浜緑ヶ丘、光陵、希望ヶ丘、多摩、横須賀、平塚江南、茅ヶ崎北稜、相模原、大和、横浜国際）の計 18 校の県立高等学校において「共通問題」と「共通選択問題」を組み合わせて実施しました。いままでの自校作成時代とはちがひ、学校が異なってもすべての大問がまったく同じになる場合があります。それぞれの大問は以下の通りですが、例年同様、数学に関する出題が多く、2023 年は理科に関する出題も多かったため、理系科目の力が重視されていることがわかります。2023 年は技能四科目に直接関係した出題はありませんでした。

		横浜翠嵐	湘南	川和	英語	数学	国語	理科	社会
共通問題	問1	○	○	○	○				○
	問2	○	○	○		○	○	○	
共通選択問題	問3		○	○		○	○	○	○
	問4			○		○	○	○	
	問5		○			○			
	問6	○				○		○	
	問7	○						○	○

共通問題 問1 英語 社会

燃料としてのガソリンと電気に関する、英語の会話文2つと発表原稿、合計3つの文章を読んで設問に答える大問でした。例年通り、問われている内容を先に確認してから、該当箇所を探しつつ読み取らなければ、解くのに時間がかかる問題でした。(ア)は会話文から必要な数値を抜き出して計算する必要がありましたが、算数レベルの計算で、解きやすいものでした。(イ)は該当する地域を選ぶ問題で、実際の地理的な事情と英文で読み取った内容を照らし合わせて答えを導くものでした。

共通問題 問2 数学 国語 理科

蛍に関する 2 つの文章と資料を読んで設問に答える大問でした。(ア)は文章の空欄部にあてはまる選択肢を答える問題で、適切な俳句を選ぶものは、難度が高かったと言えます。(ウ)は資料の箱ひげ図をもとに、考察文の空欄を埋める問題で、図の数値から光の強さの変化を読み取れたかどうかのポイントでした。

共通選択問題 問3 数学 国語 理科 社会

花火に関する 2 つの会話文を読んで設問に答える大問でした。(イ)は与えられた 4 つの絵をもとに会話文の空欄部をうめていく問題でした。会話文を丁寧に読み進めながら、内容と一致する絵と言葉を選択する必要がありました。(ウ)は花火の歴史について書かれた文章を年代順に並べ替える問題で、近世から現代と幅広い範囲から出されました。(エ)は立体図形の影に関する問題で、類題を解いた経験があるかどうかで差がついたと思われます。(カ)と(キ)は理科の問題で、物体の運動や力の合成について基礎が理解できていれば対応が可能でした。

共通選択問題 問4 数学 国語 理科

(ア)は、説明文や表の空欄に当てはまる文章や言葉を選択する問題、その他は誕生日当てゲーム、座標平面上の正方形の数、席替えなどをテーマとした数学の問題でした。(ア)の(ii)は選択肢の単語の明確なちがいを把握していなくても、例の文章から当てはまるものを選択することが可能でした。(エ)の席替えに関する問題は、表の移動先をもとに規則性に気づけたかどうかのポイントでした。

共通選択問題 問5 数学

問題の正解数、立体図形の頂点の着色、長方形内の動点に関する大問でした。(ア)は問題文をもとに矛盾点などに注目して正解を導く問題で、特色検査では頻出のものでした。(イ)は回転して同じ位置になるかどうかを考察する必要があり、難度の高いものでした。(ウ)は点の動きが規則的なので、類題を解いたことがあれば解法に悩むことはなかったと思われます。

共通選択問題 問6 数学 理科

休日の過ごし方に関する会話文を読み、身の回りの現象や道具についての設問に答えていく大問でした。(イ)の(i)はパラボラアンテナを向ける方位と都市ごとの設置角度に関する問題で、光の反射の類題として対応可能でした。(ii)は反射と2次関数の接線に関する問題で、補助線を引き、対称性を利用して丁寧に処理していく必要がありました。(エ)は与えられた問題文と図からキッチンスケールのしくみを十分に理解する必要があり、正誤判断が困難な選択肢も含まれていたため、非常に難度が高い問題でした。

共通選択問題 問7 理科 社会

サンゴ礁と鉱産資源についてまとめた 2 つの資料に関する大問でした。(ア)はサンゴ礁の地形に関する問題で、模式図と問題文を丁寧に照らし合わせて正しい選択をする必要がありました。(ウ)は海流とサンゴ礁の分布に関する問題で、暖流と寒流の流れ方を思考して解く必要がありました。(オ)はイオン化傾向の問題で、電気分解の類題を解いた経験があれば対応しやすかったことでしょう。

神奈川県の公立高校入試問題は特色検査も含め、47都道府県の中で相当難しい部類に入ることは常々生徒・保護者様には伝えております。現中3の入試では英語がどこまで難化するかが注目ですが、来年の小学校教科書改訂、再来年の中学校教科書の改訂によって、どこまで入試問題全体が難しくなるか、どこまで現場の公立中学の教育力（質と量）と乖離していくかも注目です。ペーパーつまりは定期テストの点数（純粋な学力）だけで内申点を上げることが難しい中で、内申点が低いと中上位の学校への挑戦が実質足切りでダメになる現状で、高校受験をする中学生たちはいかんにして戦っていくのか？

高校受験をする小学生の保護者様はとてご不安なことかと思ひます。

心配するな！ぜったいこうまくいく。まずはここにはっきりと伝えさせていただきます。内申点をしっかりとらせ、本番の入試で高得点させる。高津駅前校の十八番です。ですが、そうなるにはそれ相応の時間がかかります。よい学習習慣、正しい五科目の理解、強固な合格答案作成力を身につけるのに近道や特効薬はありません。今年、川和・多摩・都立国際など難関校を合格した生徒たちは皆小学生からの創研生です。可能ならば中学受験は小学2・3年から、高校受験は小学4・5年から創研学院に通塾いただけると幸いです。また稗田の理科実験への参加が神奈川の公立高校入試の数理対策につながっていますので、こちらもよろしくお祈ひします。

Will is everything!（情熱こそ!）

文責 創研学院高津駅前校 校長 福阪和重